

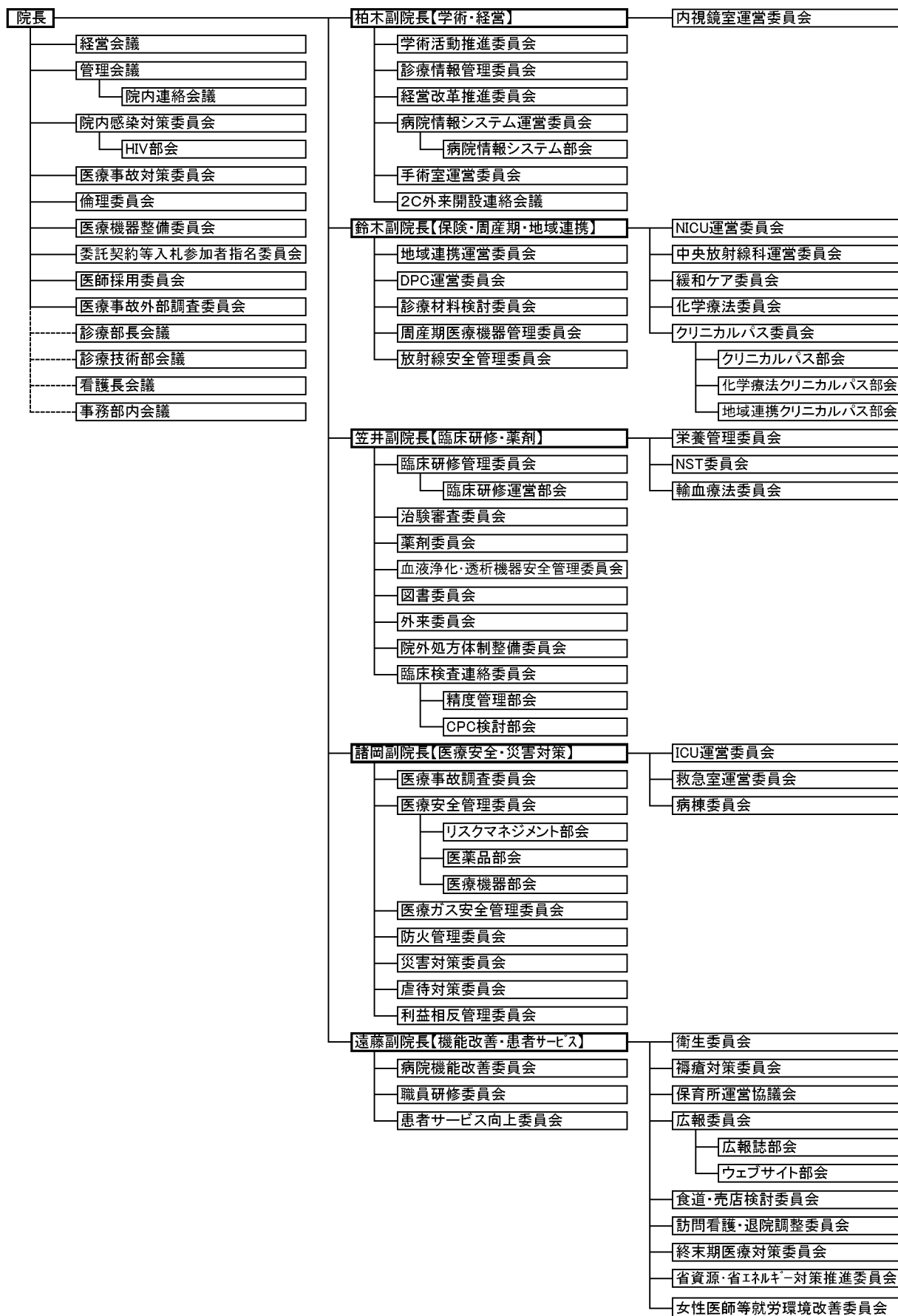
17 院内各種委員会等の活動実績

各種委員会等一覧（掲載ページ）

ページ	委員会名	ページ	委員会名
128	衛生委員会	165	食堂・売店検討委員会
129	保育所運営協議会	166	経営改革推進委員会
130	D P C 運営委員会	167	化学療法委員会
132	職員研修委員会	168	診療材料検討委員会
133	図書委員会	169	I C U 運営委員会
134	診療情報管理委員会	171	医療事故調査委員会
135	医療機器整備委員会	172	医療事故対策委員会
136	手術室運営委員会	173	病院情報システム運営委員会
138	薬剤委員会	174	血液浄化・透析機器安全管理委員会
139	治験審査委員会	176	周産期医療機器管理委員会
140	医療ガス安全管理委員会	177	地域連携運営委員会
142	臨床研修管理委員会	178	患者サービス向上委員会
144	院内感染対策委員会	180	学術活動推進委員会
145	倫理委員会	181	病棟委員会
146	訪問看護退院調整委員会	182	院外処方体制整備委員会
147	栄養管理委員会	183	女性医師等就労環境改善委員会
148	中央放射線科運営委員会	184	外来委員会
149	臨床検査連絡委員会	186	放射線安全管理委員会
150	救急室運営委員会	188	災害対策委員会
151	内視鏡室運営委員会	190	防火管理委員会
152	褥瘡対策委員会	191	虐待防止委員会（G T I）
154	クリニカルパス委員会	192	臨床研修センター
156	病院機能改善委員会	193	富士市透析防災ネットワーク
158	N S T 委員会	195	利益相反（C O I）委員会
160	輸血療法委員会	196	N I C U 運営委員会
161	医療安全管理委員会	197	省資源・省エネルギー対策推進委員会
163	緩和ケア委員会		終末期医療対策委員会
164	広報委員会		2 C 外来開設連絡会議

委員会・各種会議 組織図

(平成27年4月1日現在)



■衛生委員会

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	千葉 博胤（小児科）	副委員長	木村 哲夫（呼吸器内科）
副委員長	北村 博頭（外科）	委員	遠藤 さよ子（副院長兼看護部長）
委員	小坂 裕介（薬剤科）	委員	渡邊 修（臨床検査科）
委員	井出 敦之（中央放射線科）	委員	長嶋 泰玄（リハビリテーション科）
委員	大山 実希（栄養科）	委員	芦原 裕子（4 B病棟）
委員	飯野 球代（5 B病棟）	委員	小林 江里子（5 A病棟）
委員	宮川 亜代子（3 B病棟）	委員	鈴木 春美（5 B病棟）
委員	玉舟 正弥（病院総務課）	委員	岩垣 哲也（医事課（地域連携室））
委員	小林 あゆ美（病院経営課）	事務局	鈴木 裕子（病院総務課）
事務局	井出 大介（病院総務課）		

概要

労働安全衛生法第 18 条に基づき、職員の健康障害の防止と健康の保持増進、及び公務災害の原因、再発防止対策や安全に職務を遂行できる環境を整えることを目的として、対策の協議や審議を行う。

2 開催回数

1 回／月

3 平成 27 年度の取組実績

- (1) 定期健康診断の実施
(一般定期健診、特定業務従事者健診、電離放射線業務従事者の健康診断など)
- (2) ワクチン接種
(インフルエンザワクチン接種、HB ワクチン接種、HBV 及び HCV 検診)
(MR ワクチン接種)
- (3) 安全衛生対策の計画及び実施（安全衛生事業計画など）
- (4) 病棟職場巡視

4 来年度の課題

- (1) 健康診断の受診率 100%を目指し、職員への周知を図るとともに、要受診者等に対するフォローを徹底する
- (2) 公務災害・労働災害件数を減らす
- (3) 職場巡視を行い職員の安全・安心を守る (文責 木村 哲夫)

■保育所運営協議会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
会長	杉沢 利次（事務部長）	副会長	遠藤 さよ子（副院長兼看護部長）
会員	白川 安俊（病院総務課）	会員	鈴木 春美（職員組合）
会員	志田 奈穂子（父母代表）	会員	内藤 榮一（緑が丘保育園園長）
会員	佐藤 恵美子（保育所）	事務局	加瀬 真己子（病院総務課）

2 開催回数

1回

3 平成 27 年度の実績

昭和 60 年から院内保育所の運営を委託により行っている。本協議会は保育所の運営における必要な事項の協議を行っている。

平成 27 年 8 月 10 日（月）に開催した保育所運営協議会において、以下の件について協議を行い、運営内容を一部変更した。

・連絡ノートの使用再開について

1～2 歳児の保護者と保育士の間で、子供の健康状態や生活・行動の様子などを情報交換する連絡ノートについて、平成 27 年 4 月 1 日より使用を中止していたが、保護者からの要望があり、平成 27 年 8 月中旬より使用を再開した。

4 来年度の課題

衛生面等の環境整備に努めていきたい。また、保護者からの意見に対し協議会で協議を行い、より良い保育所の運営を今後も実施していく。

（文責 杉沢 利次）

■ D P C 運営委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	鈴木 康之 (副院長兼産婦人科部長)	副委員長	三川 秀文 (循環器内科)
委員	藤井 常宏 (代謝一般内科)	委員	野田 靖人 (脳神経外科)
委員	道躰 隆行 (外科)	委員	渡辺 由喜子 (臨床検査科)
委員	渡邊 浩臣 (薬剤科)	委員	花崎 久美子 (6 B病棟)
委員	北原 正基 (病院経営課)	委員	福良 孝生 (医事課)
事務局	森 育洋 (医事課)	事務局	寺田 和子 (医事課)
事務局	島田 英介 (医事課)		

2 開催回数

11回 (毎月1回、第4木曜日)

3 平成27年度の取組実績

DPC 運営委員会では年間を通じて診療報酬請求査定率の推移、査定改善策の検討、再審査請求の報告、各外部保険団体からの審査報告、DPC 症例からの基本統計、臨床評価指標、分析結果の報告、DPC や診療報酬に関連したトピックスの報告を行った。

今年度は28年度診療報酬改定についての速報情報の共有と新規申請施設基準の検討、後期レジデント向けDPC説明会、院内全体向け診療報酬改定説明会を開催した。診療報酬改定説明会では129名の参加があった。



4 来年度の課題

新規施設基準の獲得と、新規設定されたDPC機能評価係数Ⅱの分析と対策を検討課題とする。

【委員会資料】

診療報酬査定：社保・国保・後期高齢科別返戻・査定状況、月別返戻・査定状況、診療科別返戻・査定状況、診療区分別返戻・査定状況、査定改善策

D P C 統 計：出来高比稼働額統計、DPC 症例 (平均在院日数、期間比率、詳細不明コード率等)、臨床評価指標 (死亡率、医療関連感染発生リスク、再入院率、緊急手術率等)、DPC 件数、増収、減収 TOP20

D P C 分 析：県下3群病院機能評価係数Ⅱ分析

DPC 入院期間比率



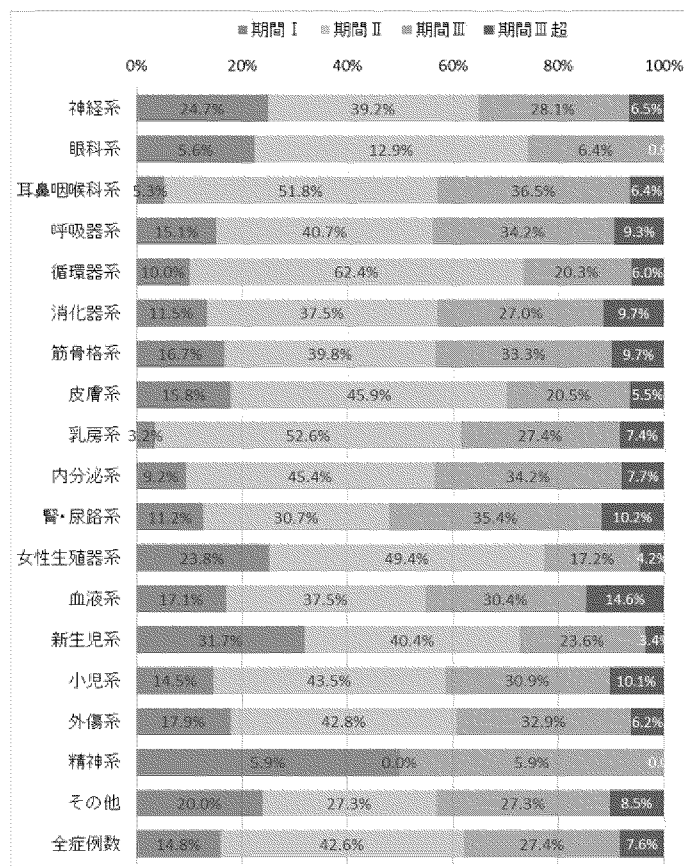
【解説】

DPC は病名と治療行為の組み合わせにより入院期間に区切りが設定されており、入院期間は、全国のDPC 病院から集められた情報により厚労省が設定している。期間の設定は入院期間 II が全国平均の入院期間である。

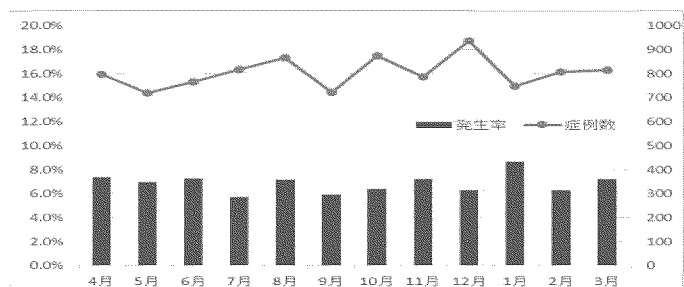
DPC ではこの入院期間 II までの割合が高いほど、効率的に治療が行われていると判断され、DPC を構成する効率性係数という部分に影響する。また DPC で設定された詳細不明コードの割合も効率性係数同様、データ提出係数という部分に影響する。こちらは厚労省に出すデータの精度を評価したものになる。

これらの係数が大きい病院のほうが高度な医療機能を有するとみなされ、1日あたりの診療報酬単価を高く請求することができる。

DPC MDC2 別入院期間比率



DPC 詳細不明コード発生率推移



(文責 鈴木 康之)

■職員研修委員会

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	遠藤 さよ子 (副院長兼看護部長)	副委員長	平川 正彦 (形成外科診療参事)
副委員長	藤澤 睦子 (副看護部長)	委員	山本 純子 (臨床検査科)
委員	稲垣 伸一 (中央放射線科)	委員	松田 祐平 (薬剤科)
委員	佐野 好美 (集中治療室)	委員	大村 友紀恵 (4 A病棟)
委員	吉村 康恵 (5 A病棟)	委員	兒玉 はるみ (6 A病棟)
委員	大井 康子 (7 A病棟)	委員	山中 陽子 (3 C病棟)
委員	宇佐美 雄二 (病院経営課)	委員	齋藤 智恵美 (医事課)
事務局	齋藤 千賀子 (病院総務課)		

2 開催回数

5回 (内1回は講演会) 不定期

3 平成27年度の取組実績

職員研修委員会は、職員の能力及び勤務能率の向上を図ることを目的として、昭和60年7月1日に設置された。

主とする活動内容は院内職員向けの研修企画と先進病院等の視察である。

昨年度に続き、職員のリフレッシュと専門分野以外の知識の向上を目的に、外部講師を招き、講演会「笑いの現場から学ぶ！最強医療コミュニケーション なんでもやねん力」を開催し、194名の参加があった。

また、先進病院等の視察では浜岡原子力館と静岡県防災センターを見学した。東日本大震災による福島第一原子力発電所事故の被害の影響が残る中、浜岡原子力発電所が取り組む地震津波対策等について学ぶと同時に、東海地震に立ち向かうための知識と防災意識の向上を図った。

4 来年度の課題

職員の更なる能力向上やリフレッシュのためのテーマを決め、研修会の開催をはじめ、先進技術を取り扱う施設等への視察を計画する。

また、院内で実施している研修一覧を作成し、職員がより有意義に研修に参加できるように情報提供していく。

(文責 遠藤 さよ子)

■図書委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	笠井 健司 (副院長兼腎内科部長)	副委員長	平川 正彦 (形成外科)
委員	鳥巢 勇一 (消化器内科)	委員	藤谷 暢子 (眼科)
委員	重田 泰史 (耳鼻咽喉科)	委員	遠藤 泰彦 (病理科)
委員	入村 雄也 (外科)	委員	矢田部 沙織 (外科)
委員	村山 雄輔 (整形外科)	委員	池田 淳 (整形外科)
委員	白川 安俊 (病院総務課)	委員	藤澤 睦子 (副看護部長)
事務局	森 育洋 (医事課)	事務局	齋藤 智恵美 (医事課)

2 開催回数

2回 (6月、12月)

3 平成 27 年度の取組実績

- ・年間で 112 冊の医学書籍の購入を行った。
- ・雑誌 125 誌の定期購読契約更新 (和雑誌 103 誌・洋雑誌 22 誌) と 6 誌 (全和雑誌) の新規契約を行った。
- ・オンライン電子図書サービスの「メディカルオンライン」「J dreamⅢ」「医中誌」「今日の診療」「電子ジャーナル」「Clinical Key」の更新を行った。
- ・電子書籍の利用を促進するため、オンライン電子図書サービスの案内を全医師に対して行った。
- ・医学資料室利用規定を整備した。

4 来年度の課題

- ・医学雑誌の電子ジャーナル化を一層促進するとともに、定期購読誌の見直しを行う。
- ・オンライン電子図書サービスの利用率を高めるため、積極的な利用案内を行う。
- ・医学資料室の利便性や機能性の向上、方向性について検討を行う。

(文責 笠井 健司)

■診療情報管理委員会

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	柏木 秀幸（副院長）	副委員長	阪本 宏志（循環器内科）
委員	加藤 努（整形外科）	委員	津島 友央（皮膚科）
委員	藤谷 暢子（眼科）	委員	石澤 将（代謝一般内科）
委員	鈴木 英訓（泌尿器科）	委員	森本 康江（5B病棟）
委員	齋藤 洋実（外来A）	事務局	島田 英介（医事課）
事務局	齋藤 智恵美（医事課）		

2 開催回数

4回（隔月、第2木曜日）

3 平成27年度の取組実績

診療情報管理委員会では、厚生労働省適時調査対応策と、記録の保管について以下の内容を実施した。

- ・急変時の客観的な記録として病棟モニターの記録保管について検討を行った。
- ・手術後麻酔チャートのリアルタイムスキャンについて検討を行った。
- ・外来カルテ、入院カルテの貸出運用について検討を行った。また現在貸出中となっており長期間経過しているカルテに追跡調査を実施し督促を行った。督促結果より、再度運用の周知を行う事とした。
- ・厚生労働省適時調査の対応として、医学資料室を医療情報安全ガイドラインに準拠した形へ運用変更と施設改修を行った。
- ・記録を一元化するため、スキャン方法統一について検討を行った。
- ・サマリー作成率向上のため、督促方法の変更を行った。
- ・医学資料室の業務拡大（手術室代行入力）について検討した。
- ・昨年度設定した臨床指標の定期的計測を行った。また計測項目について一部再考した。

4 来年度の課題

来年度は臨床指標（クリニカルインディケーター）の公開、電子カルテスキャン書類を統一したマニュアルの作成、診療録の破棄について検討を行う。

（文責 柏木 秀幸）

■医療機器整備委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	小野寺 昭一（院長）	委員	杉沢 利次（事務部長）
委員	伊東 禎浩（病院経営課）	委員	白川 安俊（病院総務課）
事務局	塩澤 忠生（病院総務課）		

2 開催回数

5回

3 平成 27 年度の取組実績

医療機器の適正なる整備を図ることを目的とし、以下の高額医療機器の購入に際し、納入価格や機器の性能等を総合的に検討し購入機種を決定した。

- ・ 移動型透視装置の更新（シーメンス、手術室運営委員会）
- ・ 超音波診断装置の更新（フィリップス、麻酔科）
- ・ 内視鏡システムの増設（オリンパス、手術室運営委員会）
- ・ 手術台の更新（瑞穂医科、手術室運営委員会）
- ・ 无影灯の更新（山田医療照明、手術室運営委員会）
- ・ 洗浄器の更新（三浦工業、中央材料室）
- ・ CT の更新（シーメンス、中央放射線科）

4 来年度の課題

平成 28 年度購入予定機器

- ・ 白内障手術装置の更新
- ・ 血液培養自動分析装置の増設

（文責 小野寺 昭一）

■手術室運営委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	柏木 秀幸（副院長）	副委員長	銅谷 実（麻酔科）
副委員長	小林 由美（手術室）	委員	平川 正彦（形成外科）
委員	高橋 康人（腎内科）	委員	織井 恒安（心臓血管外科）
委員	良元 和久（外科）	委員	加藤 努（整形外科）
委員	後藤 博一（泌尿器科）	委員	矢田 大輔（産婦人科）
委員	藤谷 暢子（眼科）	委員	宇野 匡裕（耳鼻咽喉科）～9月
委員	重田 泰史（耳鼻咽喉科）10月～	委員	阪本 宏志（循環器科）
委員	坂本 広喜（脳神経外科）	委員	井出 正俊（歯科口腔外科）
委員	池谷 幸一（中央放射線科）	委員	山元 義雄（臨床工学科）
委員	鈴木 英昭（臨床検査科）	委員	加藤 美奈子（手術室）
委員	望月 久子（手術室）	委員	石川 裕子（手術室）
委員	中川 貴裕（病院総務課）	事務局	手術室

2 開催回数

12回（毎月1回、最終月曜日）

3 平成27年度の取組実績

- 1) 平成27年度の手術室を利用した手術は、総手術件数3,789件（平成26年度3,729件、平成25年度3,533件）、緊急手術565件（563件、485件）、定期手術3,224件（3,166件、3,048件）、全身麻酔手術1,606件（1,564件、1,397件）、全身麻酔以外2,183件（2,165件、2,136件）であった。手術件数の増加は60件（1.6%）であったが、主に定期的全麻手術の増加によるものであった。
- 2) 手術件数の増加により科別の手術時間の延長は40～45%と多く、定期手術の退出時間が午後5時以降となる件数も少なくなかった。
- 3) 休止していた第5室は機器の整備を行い、1月から運用を開始した。
- 4) 手術室内物品管理業務の改善のため、管理物品のキット化を開始した。

4 来年度の課題

- 1) 手術室の運用責任者として、手術管理科部長を新設し、手術室の運用や診療部の調整、そして緊急時の対応ができる管理体制を構築する。
- 2) 手術室内の管理物品のキット化を進める。
- 3) 手術室内手術情報代行入力業務を開始する。
- 4) 手術室の老朽化した診療機器の更新を行う。

（文責 良元 和久）

■薬剤委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	笠井 健司 (副院長兼腎内科部長)	副委員長	落合 敏明 (薬剤科)
委員	阪本 宏志 (循環器内科)	委員	藤谷 暢子 (眼科)
委員	木村 哲夫 (呼吸器内科)	委員	平川 正彦 (形成外科)
委員	藤井 常宏 (代謝一般内科)	委員	重田 泰史 (耳鼻咽喉科)
委員	石澤 将 (代謝一般内科)	委員	外岡 雄二 (精神神経科)
委員	鳥巢 勇一 (消化器内科)	委員	銅谷 実 (麻酔科)
委員	河野 優 (神経内科)	委員	勝山 直彦 (歯科口腔外科)
委員	山田 浩介 (小児科)	委員	織井 恒安 (心臓血管外科)
委員	加藤 努 (整形外科)	委員	野田 靖人 (脳神経外科)
委員	津嶋 友央 (皮膚科)	委員	遠藤 泰彦 (病理科)
委員	後藤 博一 (泌尿器科)	委員	良元 和久 (外科)
委員	矢田 大輔 (産婦人科)	委員	松井 洋 (放射線科)
委員	伊藤 すみ子 (副看護部長)	委員	伊東 禎浩 (病院経営課)
委員	福良 孝生 (医事課)	事務局	薬剤科

2 開催回数

原則として年3回開催【6月・10月・2月の第3週月曜日：平成27年6月29日（月）、平成27年10月26日（月）、平成28年2月29日（月）】

3 平成27年度の取組実績

新規採用薬品、院外処方許可薬品、後発薬品、削除薬品の選定、その他医薬品に関する審議を行った。

- ①新規採用品目 : 64 製剤 73 品目
- ②院外処方許可薬 : 25 製剤 27 品目
- ③後発薬品 : 30 製剤 32 品目
- ④削除薬品 : 31 製剤 35 品目
- ⑤後発薬品置き換え率 : 61.4%

4 来年度の課題

- ①採用薬品の選定: より良い医療が提供できる適切な医薬品の採用に努める。また、適正在庫に努め、削除薬品の選定を行う。
- ②後発薬品の選定: 「後発薬品のさらなる使用促進のためのロードマップ」に従い、後発薬品置き換え率70%をめざす。

(文責 笠井 健司)

■ 治験審査委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	笠井 健司(副院長兼腎内科部長)	副委員長	落合 敏明(薬剤科)
委員	鈴木 康之(副院長兼産婦人科部長)	委員	諸岡 暁(副院長兼脳神経科部長)
委員	遠藤 さよ子(副院長兼看護部長)	委員	杉沢 利次(事務部長)
委員	福良 孝生(医事課)	事務局	薬剤科

2 開催回数

0回

3 平成 27 年度の取組実績

治験審査委員会として認められる組織の構築及び治験を含む臨床研究に関する最新情報収集のための研修会に出席した。

(1) 平成 27 年 5 月 21 日 (木)

研修名：「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」対応へのポイント

講 師：独立行政法人国立病院機構 東京医療センター 近藤 直樹

場 所：富士市立中央病院

内 容：「疫学研究に関する倫理指針」と「臨床研究に関する倫理指針」が統合され、新たに施行された「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の次の5つのポイントを解説。①倫理審査委員会の機能強化と審査の透明性確保のための規定の充実、②研究責任者の責務の明確化、教育・研修の規定の充実、③データ改ざん防止のため、モニタリング・監査の規定の新設、④資料の保存に関する規定の新設、⑤利益相反に関する規定の新設。

4 来年度の課題

- ・GCP (Good Clinical Practice：医薬品の臨床試験の実施の基準に関する省令) に則した治験受け入れ体制を整備し、治験審査を開始する。
- ・委員の構成、SMO (Site Management Organization：治験施設支援機関) との関わりなど委員会のあり方を検討する。

(文責 笠井 健司)

■医療ガス安全管理委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	諸岡 暁 (副院長兼脳神経外科部長)	副委員長	杉沢 利次 (事務部長)
委員	遠藤 さよ子 (副院長兼看護部長)	委員	銅谷 実 (麻酔科)
委員	石川 隆之 (臨床検査科)	委員	井出 宣孝 (中央放射線科)
委員	落合 敏明 (薬剤科)	委員	山元 義雄 (臨床工学科)
委員	白川 安俊 (病院総務課)	事務局	中川 貴裕 (病院総務課)
事務局	宇佐美 友紀 (病院総務課)		

2 開催回数

1回 平成27年9月8日 (火)

3 平成27年度の取組実績

【目的】医療ガス及び医療ガス設備の安全管理を図り、患者及び取扱者の生命の安全を確保することを目的とする。

(1) 医療用ガスボンベの巡回点検

【日時】平成27年6月24日 (水)

【目的】医療用ガスボンベの安全確認と高圧ガスであることの認識を高めるため、各設置場所 (21 部署) を巡回点検し、問題がある場合は指導を行い、改善を図る。

【内容】 1. 酸素ボンベ置場の表示

2. 酸素ボンベの本数と保管状況 (高圧ガス保安法第15条、保安規則18条)

①酸素の充填容器の周囲2m以内には引火性のものを置かないこと

②転倒防止の措置を講じること

③直射日光に当てないなど常に40℃以下に保つこと

3. 流量計取付け用レンチの有無

(2) 「医療ガス安全使用に関する講習会」の開催

【目的】医療ガス及び医療ガス設備の安全管理を図り、患者及び取扱者の生命の安全を確保することを目的とする。

日 時	対 象	参加人数	研 修 内 容
H27. 4. 27	新規採用看護師	36名	酸素ボンベの取扱い他 (実習・ビデオ)
H27. 5. 15	卒2看護師他	34名	酸素ボンベの取扱い他 (実習・ビデオ)
H27. 11. 20 26 30	医療補助員	97名	事故症例・酸素ボンベについて 配管端末の日常点検

4 来年度の課題

- (1) 医療ガスに関する環境整備（法令順守）の徹底を行い事故防止に努める
- (2) 配管端末器、ホースアSEMBリの日常点検の慣習化
- (3) 巡回点検により医療ガスの認識度を高める
- (4) 安全講習会を継続的に開催し、医療ガスによる事故防止の啓発活動に努める

(文責 諸岡 暁)

■臨床研修管理委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	笠井 健司 (副院長兼腎内科部長)	副委員長	鈴木 康之 (副院長兼産婦人科部長)
委員	小野寺 昭一 (院長)	委員	梶本 徹也 (外科)
委員	後藤 博一 (泌尿器科)	委員	秋山 直枝 (小児科)
委員	銅谷 実 (麻酔科)	委員	遠藤 康彦 (病理科)
委員	勝山 直彦 (歯科口腔外科)	委員	杉沢 利次 (事務部長)
委員 (外部)	永井 しづか (富士保健所)	委員 (外部)	高木 啓 (鷹岡病院)
委員 (外部)	吉川 充 (望月産婦人科医院)	委員 (外部)	上田 正山 (上田クリニック)
事務局	鈴木 裕子 (病院総務課)		

2 開催状況

第1回臨床研修管理委員会 (平成28年3月14日)

議題 (1) 平成27年度事業報告及び平成28年度事業計画 (案) について

(2) 研修医の初期臨床研修終了認定について

(3) 平成27年度・28年度の初期臨床研修医について

(4) 臨床研修案内及びプログラム (案) について

3 平成27年度 of 取組実績

(1) 研修医採用 医師：2名

歯科医師：1名 (日本歯科大学の協力病院として8ヶ月)

(2) マッチング 申込者：1名、マッチ：1名

(3) 合同説明会 ①静岡県医師臨床研修病院 (初期・後期) 合同説明会 in 沼津
平成27年6月6日 (土) プラザヴェルデ

②静岡県医師臨床研修病院 (初期・後期) 合同説明会 in 浜松
平成27年8月25日 (火) ホテルクラウンパレス浜松

③静岡県医師臨床研修病院 (初期・後期) 合同説明会 in 静岡
平成28年3月26日 (土) グランシップ

④レジナビフェア2015 in 東京
平成27年7月19日 (日) 東京ビッグサイト

⑤レジナビフェアスプリング2016 東京
平成28年3月20日 (日) 東京ビッグサイト

⑥ふじのくにバーチャルメディカルカレッジ夏季セミナー

平成 27 年 8 月 25 日（火） ホテルクラウンパレス浜松

⑦聖マリアンナ医科大学訪問

平成 27 年 11 月 11 日（水）

- (4) 医学生病院見学 15 名（日本医科大学、聖マリアンナ医科大学 他）
- (5) 医師・歯科医師・薬剤師志望の市内高校生 1 日体験
平成 27 年 8 月 5 日（水） 27 名（富士高 17 名、富士東高 7 名、その他 3 名）
- (6) ブラックジャックセミナー開催（市内中学生手術模擬体験）
平成 27 年 9 月 12 日（土） 36 名
- (7) 東部地域病院見学&意見交換会
平成 28 年 3 月 16 日（水）見学者 15 名
- (8) 合同研修会等
 - ①静岡県主催初期臨床研修合同研修会
縫合・糸結び・注射法等
平成 27 年 6 月 13 日（土）
 - ②静岡外傷セミナー in 富士宮
平成 27 年 7 月 11 日（土）
 - ③ICLS 認定 富士 ICLS コース
平成 27 年 8 月 5 日（水）
 - ④静岡県主催初期臨床研修合同研修会
超音波ガイド中心静脈穿刺セミナー
平成 27 年 11 月 21 日（土）
 - ⑤災害対策訓練
平成 27 年 11 月 29 日（日）
 - ⑥臨床研修医スキルアップ研修
毎月第 4 金曜日

（文責 笠井 健司）

■院内感染対策委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	小野寺 昭一（院長）	副委員長	後藤 博一（感染対策室長・泌尿器科）
委員	柏木 秀幸（副院長）	委員	鈴木 康之（副院長兼産婦人科部長）
委員	笠井 健司（副院長兼腎内科部長）	委員	諸岡 暁（副院長兼脳神経外科部長）
委員	遠藤 さよ子（副院長兼看護部長）	委員	藤井 常宏（代謝一般内科）
委員	石川 隆之（臨床検査科）	委員	藤本 浩二郎（診療技術部長）
委員	井出 宣孝（中央放射線科）	委員	藤澤 睦子（副看護部長）
委員	伊藤 すみ子（副看護部長）	委員	杉沢 利次（事務部長）
委員	伊東 禎浩（病院経営課）	委員	白川 安俊（病院総務課）
委員	福良 孝生（医事課）	委員	田中 稔（副看護部長兼医療安全対策室長）
委員	増田 満伯（感染対策室）	事務局	感染対策室

H I V部会スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
部会長	藤井 常宏（代謝一般内科）	部員	6名

2 開催回数

12回（毎月1回、第1金曜日医療安全管理委員会と同時開催）

3 平成27年度の実績

病院感染対策の最高機関として院内の感染対策活動を統括した。ICTからの検討事項の承認やインフルエンザ対策としての面会制限、コホート室の確保など病院感染防止を指示した。また、病院機能評価で指摘された感染性リネン専用ランドリーカートの設定や感染性医療廃棄物ボックスを段ボール製に変更しコスト削減を図った。

4 来年度の課題

院内の全ての人を感染から守る活動を推進し、市民により良い医療をやさしく安全に提供する。また、地域と緊密な連携をとり、富士医療圏の感染対策強化に努める。

（文責 小野寺 昭一）

■倫理委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	柏木 秀幸（副院長）	副委員長	鈴木 康之（副院長兼産婦人科部長）
委員	遠藤 さよ子（副院長兼看護部長）	委員	落合 敏明（薬剤科）
委員	杉沢 利次（事務部長）	外部委員	安倍 徹（前静岡県教育長）
外部委員	石山 みづ美（常葉大学保育学部准教授）	事務局	玉舟 正弥（病院総務課）

※外部委員は平成 27 年 10 月 1 日から

2 開催回数

12 回（毎月 1 回、第 3 木曜日）

3 平成 27 年度の取組実績

倫理委員会は、当院における医療の倫理に関する事項を審議するため、平成 7 年 5 月 10 日に設置された。

委員会を 12 回開催、20 案件を審議した結果、委員会の意見等を付して 14 案件を承認した。

申 請 内 容	申請	承認	保留	不承認
論文化、学会雑誌への投稿	2	1	1	—
保険適応外の検査、診療、薬剤使用	9	4	4	1
他施設で行われる治験への参加	1	1	—	—
当院としての対応方針の検討	3	3	—	—
大学・財団等で行われる医学的研究への参加	5	5	—	—

4 来年度の課題

文部科学省・厚生労働省が定めた『人を対象とする医学系研究に関する倫理指針』の原則を踏まえ、倫理的課題を積極的に取り上げ、定期的に委員会を開催し、迅速かつ精緻な審議を行っていく。

（文責 柏木 秀幸）

■訪問看護退院調整委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	伊藤 すみ子 (副看護部長)	副委員長	北島 美鈴 (外来A)
委員	谷田部 沙織 (外科)	委員	瀧 謙太郎 (代謝一般内科)
委員	望月 保子 (薬剤科)	委員	渡邊 裕子 (在宅療養支援グループ)
委員	秋山 ゆかり (3B病棟)	委員	河合 利枝 (6A病棟)
委員	佐野 みどり (7B病棟)	委員	仲澤 実加 (病院総務課)
委員	古郡 朝子 (栄養科)	委員	佐藤 理絵 (医事課)
事務局	村松 和歩 (在宅療養支援グループ)		

2 開催回数

3回 (6月、11月、3月 第3水曜日)

3 平成27年度の取組実績

(1) 訪問看護実施患者の紹介と経過報告及び訪問看護終了者報告

訪問看護実施中の患者について訪問看護師より状態説明を行い、困難ケースや在宅終末期ケアの実際について他のスタッフと検討した。さらに、訪問看護終了者について事例を検討し、看護の実際について情報を共有した。

(2) 新規訪問看護患者の紹介と承認

病棟より依頼を受けた患者について、当院での訪問看護を実施するための承認を受けた。承認患者数：47名

(3) 退院調整患者報告

退院調整実施患者の報告を行い、困難事例について検討した。

検討患者数：21名

(4) 訪問看護・退院調整業務の運営について、問題点を抽出し改善策を検討した。

(5) 訪問看護認定看護師 (日本看護協会) が看護の専門性を発揮した活動を行った。

4 来年度の課題

平成28年度の病院指針“「この病院に来てよかった」と思える医療の提供”のもと、看護部訪問看護退院調整担当委員会と連携し、退院前自宅訪問を実施するなど患者・家族の満足度が向上する活動を実施していく。

(文責 伊藤 すみ子)

■栄養管理委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	坪井 一人 (外科)	副委員長	藤本 浩二郎 (診療技術部長)
委員	木村 哲夫 (呼吸器内科)	委員	秋山 直枝 (小児科)
委員	鈴木 康之 (副院長兼産婦人科部長)	委員	浮池 梓 (外科)
委員	伊藤 すみ子 (副看護部長)	委員	高橋 ハマ子 (4 B病棟)
委員	森本 康江 (5 B病棟)	委員	大塚 君子 (6 B病棟)
委員	高井 みさ子 (7 B病棟)	委員	杉沢 利次 (事務部長)
委員	白川 安俊 (病院総務課)	委員	福良 孝生 (医事課)
事務局	小俣 朋子 (栄養科)	事務局	古郡 朝子 (栄養科)
事務局	大山 実希 (栄養科)		

2 開催回数

3回 (5月・9月・3月) の開催に加え、毎月定例会報告を実施

3 平成 27 年度の取組実績

- ①委員会のメンバーで昼食を検食し献立の検討をしている。
- ②食事についての嗜好調査実施結果を報告した。(年間4回実施)
- ③箸、スプーン、マグカップの個数については、定期的に報告し確認、併せて破損状況も確認、紛失・破損が多い場合は追加購入を協議し補充していく。
- ④給食業者は5年契約であり平成28年9月末で日本ゼネラルフード株式会社の任期が終了となるため、今後の業者選定作業を予定している。
- ⑤異物混入等の食事に関するインシデント・アクシデントについての報告を行い、委員会内で再度その後の対応・改善策について協議し、誤配膳防止対策として禁止食品があるコメント対応患者に対してのトレーを色分け(ピンク色)し注意喚起をしている。

4 来年度の課題

今後も検食、嗜好調査を通して病院食の更なる改善を図っていく。

また、食事に関するインシデント・アクシデント報告については、他部門の意見を取り入れた再発防止策を実践していくことで、インシデント・アクシデント発生件数が減少するように努めていく。

(文責 坪井 一人)

■中央放射線科運営委員会

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	松井 洋（放射線科）	副委員長	後藤 博一（泌尿器科）
副委員長	井出 宣孝（中央放射線科）	委員	織井 恒安（心臓血管外科）
委員	加藤 努（整形外科）	委員	鳥巢 勇一（消化器内科）
委員	良元 和久（外科）	委員	坂本 広喜（脳神経外科）
委員	阪本 宏志（循環器内科）	委員	高木 省一（中央放射線科）
委員	清水 則雄（中央放射線科）	委員	遠藤 一弘（中央放射線科）
委員	西田 英明（臨床工学科）	委員	遠藤 聡（臨床検査科）
委員	北島 美鈴（外来A）	委員	佐野 まり子（外来C）
委員	杉本 祐介（外来C）	事務局	遠藤 佳秀（中央放射線科）

2 開催回数

2回

3 平成27年度の取組実績

(1) MRI対応ペースメーカー装着患者の運用について

当院MRI（1.5T）は、IECに準拠していないため当該患者の撮影は不可であったが、条件が緩和され撮影が可能となった。

装置も12年目に入り、老朽化による不具合が生じる可能性を考慮し、今後は医療機器安全委員会と協力して機器更新の検討を積極的に行っていく。

(2) 電子カルテ更新に関すること

平成28年12月に更新予定である電子カルテのベンダーは、引き続き現行のベンダー（現行の業者）が継続することから、部門システムの選定も電子カルテシステムと同様の対応を予定している。内視鏡システムに関しては、放射線システムからの独立と東京慈恵会医科大学と同じシステムの採用、また放射線読影システムに関しても同大学と同じシステムを望む等の意見がでた。

(3) クイクセルパッチ装着者健診について

保健所立ち入り検査において、医師の受診率が低いとの指摘があった。健康管理は重要であることから、後藤副委員長から医師に対する啓発を行った。

(4) 心臓CTにおけるβブロッカーの注射について

現在は循環器内科医師が行なっているが、看護師の業務として実施可能か否か、看護部に検討を依頼した。

4 来年度の課題

医療機器の計画的更新、及び収益を考慮した現有機器の有効利用

（文責 松井 洋）

■臨床検査連絡委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	笠井 健司 (副院長兼腎内科部長)	副委員長	遠藤 泰彦 (病理科)
副委員長	石川 隆之 (臨床検査科)	委員	三川 秀文 (循環器内科)
委員	加藤 努 (整形外科)	委員	日馬 由貴 (小児科)
委員	山城 秀樹 (代謝一般内科)	委員	熊谷 祐 (外科)
委員	鈴木 英訓 (泌尿器科)	委員	矢田 大輔 (産婦人科)
委員	角藤 律 (脳神経外科)	委員	高井 みさ子 (7 B病棟)
委員	小野田 智恵子 (4 A病棟)	委員	仲澤 実加 (病院総務課)
委員	名切 孝介 (医事課)	委員	鈴木 雅人 (臨床検査科)
委員	渡辺 修 (臨床検査科)	委員	渡邊由喜子 (臨床検査科)
委員	鈴木 英昭 (臨床検査科)	事務局	石川 隆之 (臨床検査科)

目的 臨床検査と他部門との相互の連絡を密にし、業務上の糧とする。

2 開催回数

4回 (6月、9月、12月、3月の第3水曜日に開催)

※委員会報告は電子カルテより閲覧可能

3 平成27年度の取組実績

- ・検査科代行入力の施行実態について報告し運用の確認をした。
- ・T-SPOT・TBの追加検査としてクオンティフェロン委託検査を再開した。
- ・悪性リンパ腫病理組織検査の外部委託について説明と運用の確認をした。
- ・病理検査報告未読一覧は依頼医師と診療部長に通知することとした。
- ・採血待ち時間の状況を報告し待ち時間の削減に向けてシステムを更新した。
- ・次期特殊検査委託業者選定についてはプロポーザル方式の採用とした。
- ・富士市立中央病院CPC 2回、院内CPC 2回を開催した。

4 来年度の課題

臨床や他部門からの要望、意見には速やかに対応し、新規検査項目測定など積極的に取り組みたい。新検査システムの構築、運用、連携に向けて院内広報による周知を徹底していきたい。また、多くのCPCが開催出来るよう剖検数の増加と委員会の充実に向けて努力していきたい。

(文責 笠井 健司)

■救急室運営委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	藤井 常宏 (代謝一般内科)	副委員長	阪本 宏志 (循環器内科)
副委員長	坪井 一人 (外科)	副委員長	北島 美鈴 (外来A)
委員	諸岡 暁 (副院長兼脳神経外科部長)	委員	鈴木 康之 (副院長兼産婦人科部長)
委員	後藤 博一 (泌尿器科)	委員	加藤 努 (整形外科)
委員	山田 浩輔 (小児科)	委員	大野 真一 (臨床検査科)
委員	杉山 伸一 (中央放射線科)	委員	佐野 まり子 (外来C)
委員	白戸 幸子 (外来C)	委員	杉本 祐介 (外来C)
委員	岩垣 哲也 (医事課 (地域連携室))	事務局	玉舟 正弥 (病院総務課)

2 開催回数

12回 (毎月1回、第2木曜日)

3 平成27年度の取組実績

平成27年度1年間の救急外来受診者数は9,757名であり、当院に入院となった患者総数は4,226名 (入院率43.3%)。そのうち、休日・祝日・夜間に救急外来を受診した患者総数は7,500名で、当院に入院となった患者総数は、3,050名 (入院率40.4%)であった。

救急車による搬入は総数で3,500名であった。そのうち、入院した患者数は2,077名 (入院率59.3%)であり、休日・祝日・夜間の救急車で搬入患者数は2,436名であった。そのうち、入院した患者数は1,400名 (入院率57.5%)であった。休日・祝日・夜間に医療センターより紹介された患者数は1,439名で、そのうち、入院となった患者総数は744名 (入院率51.7%)であった。診療所・開業医・病院から休日・祝日・夜間に紹介された患者総数は1,129名で、当院に入院となった患者総数は690名 (入院率61.1%)であった。

4 来年度の課題

富士市内の二次救急を担う病院は医師不足の状況で救急医療を行っている。そのため、救急医療要請に十分対応できず、近隣の市外の病院への搬送を余儀なくされる事案が生じることもある。この状態を少しでも改善させるためには、二次病院の連携、協力が必要である。また、救急消防隊 (警防課) とは3ヵ月毎に救急搬送に関する事例検討を行っている。さらに富士警察署との連絡会議も継続していきたい。

(文責 藤井 常宏)

■内視鏡室運営委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	鳥巢 勇一 (消化器内科)	副委員長	北島 美鈴 (外来A)
委員	柏木 秀幸 (副院長)	委員	梶本 徹也 (外科)
委員	木村 哲夫 (呼吸器内科)	委員	鍋島 雄和 (中央放射線科)
委員	高井 みさ子 (7B病棟)	委員	白戸 幸子 (外来C)
委員	後藤 光子 (外来D)	委員	勝亦 由美 (外来C)
事務局	内視鏡室		

2 開催回数

8回

3 平成 27 年度の取組実績

- (1) 内視鏡の故障時に代替の内視鏡の貸し出しが保証された保守契約をオリンパスと行った。
- (2) 停電時の対応のため内視鏡室に赤コンセント電源を設置した。
- (3) 電子カルテの更新にあたり内視鏡システムとしてオリンパスの「Solemio ENDO」を選抜した。
- (4) 内科で施行する治療内視鏡が多い月曜日と水曜日については内視鏡外科枠をなくし全て内科枠とした。
- (5) カプセル内視鏡のシステムを導入し、入院患者を対象としたカプセル内視鏡の運用を開始した。

4 来年度の課題

- (1) 本年度に引き続き内視鏡検査、治療の増加が予想されることより、効率の良い運用に努める。
- (2) 内視鏡デバイスの種類が増加しており、不必要な物品の整理・定数管理の見直しを行いたい。
- (3) コスト削減のための内視鏡デバイスの変更や現行物品の納入価格の交渉を NHS と協力して行う。

(文責 鳥巢 勇一)

■褥瘡対策委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	津嶋 友央（皮膚科）	副委員長	花崎 久美子（6 B病棟）
委員	平川 正彦（形成外科）	委員	田中 慶子（外来A）
委員	加藤 美奈子（手術室）	委員	田島 眞弓（外来D）
委員	松山 早登美（7 A病棟）	委員	若林 久美子（褥瘡対策専従）
委員	遠藤 喜巳子（5 B病棟）	委員	小林 宏美（ICU）
委員	小俣 朋子（栄養科）	委員	宇佐美 朝子（栄養科）
委員	大山 実希（栄養科）	委員	阿部 一仁（薬剤科）
委員	其田 かなた（リハビリテーション科）	委員	永嶋 泰玄（リハビリテーション科）
事務局	齋藤 智恵美（医事課）	事務局	名切 孝介（医事課）

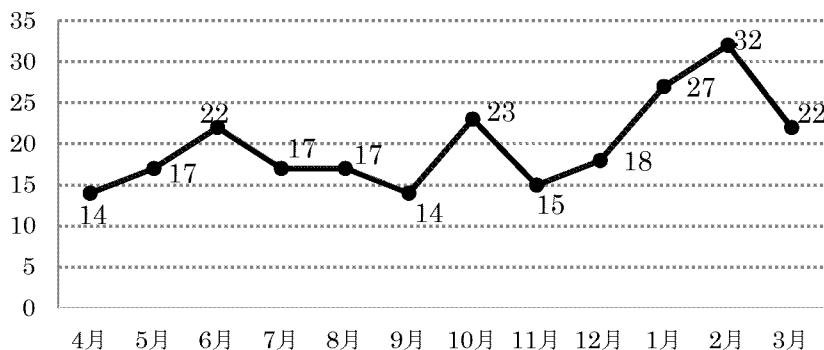
2 開催回数

10回（毎月1回、第4火曜日、8月・12月を除く）

3 平成27年度の取組実績

入院時にすでに褥瘡がある患者さん、および入院中に新たに褥瘡が発生した患者さんはすべて褥瘡チームが介入し、定期的に回診を行っている。回診は週に1回行っており、月ごとの回診件数を図1に示す。平均は19.8件/月。持ち込みの褥瘡の件数と入院中に新たに褥瘡が発生した件数を図2に示す。月ごとの褥瘡推定発生率(※)を図3に示す。平成27年度の年間平均値は、0.98%であり全国平均の1.40%より低い。

図1 褥瘡回診件数



褥瘡ハイリスク患者ケア加算（1入院につき1回算定：500点）は平成27年度で2,158件（月平均180件）算定した。

図2 褥瘡件数

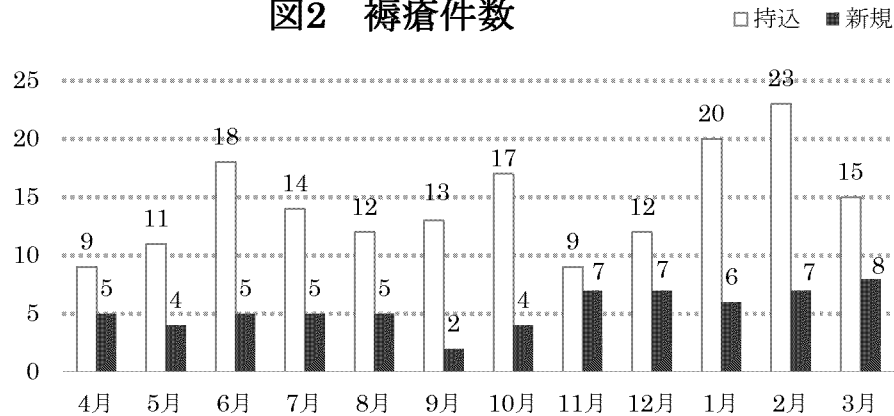
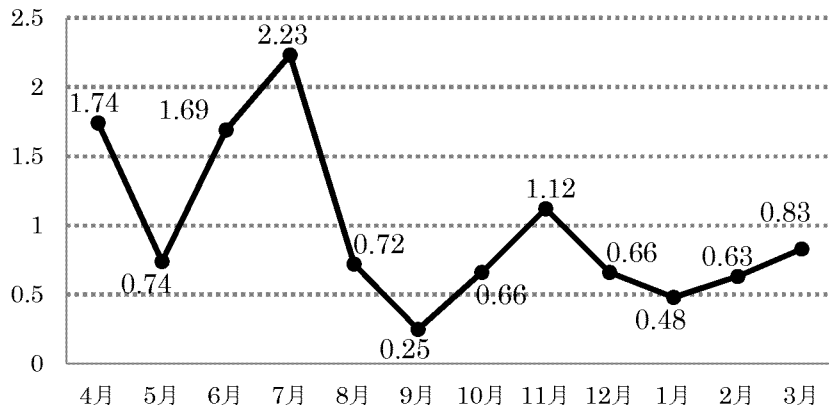


図3 褥瘡推定発生率 (%)



(※) 褥瘡推定発生率

$$\frac{(\text{調査日に褥瘡を保有する患者数} - \text{入院時すでに褥瘡を保有していた患者数})}{\text{調査日の施設入院患者数} \times 100}$$

体圧分散寝具の運用基準を見直し、さらに有効に活用されるようになった。
 平成27年度の体圧分散寝具の稼働率は95.2%であった。
 平成27年10月7日に、リハビリテーション科の委員2名による勉強会を開催した。
 『シーティングとクッション』をテーマとし、94名の職員が参加した。

4 来年度の課題

体圧分散用具を有効に活用し、引き続き褥瘡発生ゼロを目指していきたい。また、体圧分散用具やクッションの管理および更新を適切に行っていく。さらに、褥瘡カンファレンスや研修、勉強会の実施により、職員のスキルアップと知識の向上を図っていきたい。

(文責 津嶋 友央)

■クリニカルパス委員会

1 スタッフ

【委員会】

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	良元 和久（外科）	副委員長	森本 康江（5 B病棟）
委員	矢田 大輔（産婦人科）	委員	加藤 努（整形外科）
委員	中野 真範（消化器内科）	委員	富永 光敏（循環器内科）
委員	井出 正俊（歯科口腔外科）	委員	勝又 祐子（7 B病棟）
委員	大滝 哲也（薬剤科）	委員	島田 英介（医事課）
事務局	島田 英介（医事課）	事務局	名切 孝介（医事課）
事務局	佐野 元美（医事課）		

【クリニカルパス部会】

役 職	氏 名	役 職	氏 名
部会長	良元 和久（外科）	副部会長	勝又 祐子（7 B病棟）
副部会長	小林 二十美（5 A病棟）	部員	他 25 名

【化学療法クリニカルパス部会】

役 職	氏 名	役 職	氏 名
部会長	良元 和久（外科）	副部会長	森本 康江（5 B病棟）
部会員	13 名		

2 開催回数

【委員会】12回（毎月1回、第1火曜日）

【クリニカルパス部会】11回（毎月1回、第2火曜日）

【化学療法クリニカルパス部会】2回（9・1月、第4金曜日）

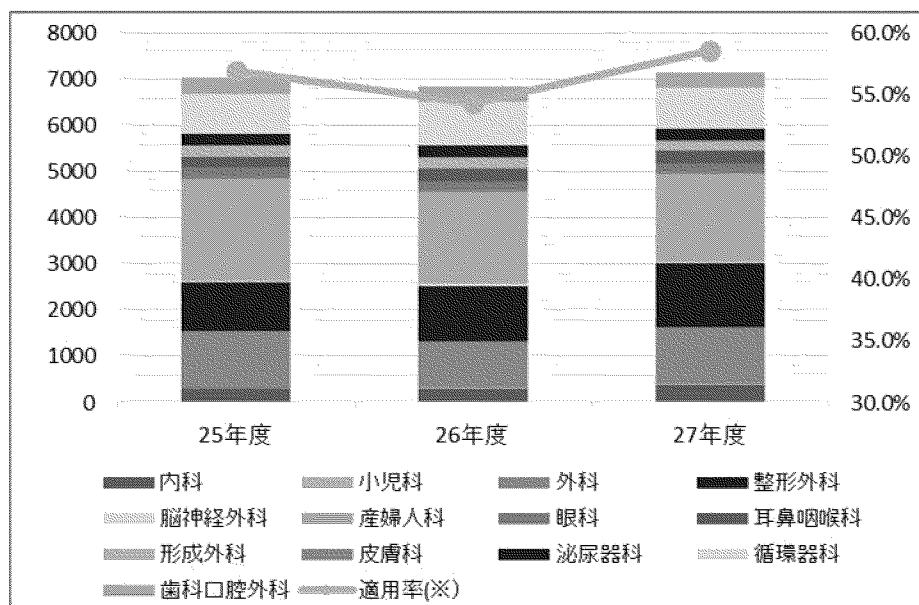
3 平成27年度の取組実績

平成27年度は、5月22日、10月13日、2月9日の3回にわたって、クリニカルパス大会を開催し、クリニカルパスの基準や、バリエーション分析についての講演を行った。

平成27年度に適応したクリニカルパスは7,150件であり、25年度から3年間の適応件数とその推移は表および図に示す通りである。

クリニカルパス適用件数				
	25年度	26年度	27年度	平均適用
内科	294	305	391	330
小児科	18	24	11	18
外科	1244	988	1236	1156
整形外科	1051	1220	1371	1214
脳神経外科	34	47	42	41
産婦人科	2223	1984	1915	2041
眼科	236	241	229	235
耳鼻咽喉科	232	276	257	255
形成外科	230	222	216	223
皮膚科	9	17	19	15
泌尿器科	258	249	258	255
循環器科	856	943	878	892
歯科口腔外科	351	334	327	337
総計	7036	6850	7150	7012
適用率(※)	56.9%	54.3%	58.5%	56.6%

※ クリニカルパス適用率＝クリニカルパス適用件数÷電子カルテ上入院件数×100



4 来年度の課題

- ・クリニカルパスの管理・整備体制を充実させる
- ・すべてのアウトカムを Basic Outcome Master に置き換える
- ・地域がん診療病院として、地域連携パスの体制整備について更なる協議を行う

(文責 良元 和久)

■病院機能改善委員会

1 スタッフ

(1) 全体会

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	遠藤 さよ子 (副院長兼看護部長)	副委員長	河野 優 (神経内科)
副委員長	伊藤 すみ子 (副看護部長)	副委員長	藤本 浩二郎 (診療技術部長)
委員	阪本 宏志 (ICU, 循環器内科)	委員	柏木 秀幸 (副院長、手術室)
委員★	後藤 博一 (3 B, 泌尿器科)	委員	鈴木 康之 (副院長兼産婦人科部長, 4 A, 産婦人科)
委員	日馬 由貴 (4 B, 小児科)	委員	重田 泰史 (5 A, 耳鼻咽喉科)
委員★	良元 和久 (5 B, 外科)	委員	山城 秀樹 (6 A, 代謝一般内科)
委員★	高橋 康人 (6 B, 腎内科)	委員	阿部 裕一 (7 A, 循環器内科)
委員	中野 真範 (7 B, 消化器内科)	委員	加藤 努 (3 C, 整形外科)
委員	藤井 常宏 (代謝一般内科)	委員	笠井 健司 (副院長兼腎内科部長, 腎内科)
委員	木村 哲夫 (呼吸器内科)	委員	鳥巢 勇一 (消化器内科)
委員	織井 恒安 (心臓血管外科)	委員	秋山 直枝 (小児科)
委員	梶本 徹也 (外科)	委員	平川 正彦 (形成外科)
委員	諸岡 暁 (副院長兼脳神経外科部長, 脳神経外科)	委員	津嶋 友央 (皮膚科)
委員	藤谷 暢子 (眼科)	委員	松井 洋 (放射線科)
委員	銅谷 実 (麻酔科)	委員	遠藤 泰彦 (病理科)
委員	勝山 直彦 (歯科口腔外科)	委員★	加藤 寛史 (薬剤科)
委員	西田 英明 (臨床工学科)	委員★	菅原 和仁 (中央放射線科)
委員★	鈴木 英昭 (臨床検査科)	委員	小俣 朋子 (栄養科)
委員	植松 和子 (集中治療室)	委員	小林 由美 (手術室)
委員	今野 美枝子 (3 B病棟)	委員	水野 博代 (4 A病棟)
委員	高橋 ハマ子 (4 B病棟)	委員	勝又 千壽子 (5 A病棟)
委員	森本 康江 (5 B病棟)	委員★	大塚 君子 (6 A病棟)
委員	花崎 久美子 (6 B病棟)	委員	勝山 弘子 (7 A病棟)
委員	高井 みさ子 (7 B病棟)	委員	大石 悦子 (3 C病棟)
委員	北島 美鈴 (外来A)	委員	佐野 まり子 (救急外来)
委員	齋藤 幸子 (医事課 (地域連携室))	委員	田中 稔 (医療安全対策室)
委員★	田中 慶子 (外来A)	委員★	渡邊 かおる (集中治療室)
委員★	中村 三千代 (5 A病棟)	委員★	鈴木 裕子 (3 C病棟)
委員★	小澤 花子 (4 A病棟)	委員★	山中 祐子 (6 B病棟)
委員★	戸塚 美晴 (7 B病棟)	委員★	玉舟 正弥 (病院総務課)
委員★	中川 貴裕 (病院総務課)	委員★	森 育洋 (医事課)
事務局	小林 あゆ美 (病院経営課)		

(2) 定例会

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	遠藤 さよ子 (副院長兼看護部長)	副委員長	河野 優 (神経内科)
副委員長	伊藤 すみ子 (副看護部長)	副委員長	藤本 浩二郎 (診療技術部長)
委員	17名 (★は定例会委員を兼務)		

2 開催回数

- (1) 全体会：0回
- (2) 定例会：12回 (毎月1回、第3火曜日)

3 平成27年度の取組実績

- (1) 病院機能評価「期中の確認」に係る自己評価実施票及び質改善シートの作成・提出
- (2) 待ち時間集計報告 (毎月)
- (3) 職員満足度調査の実施 (7月7日～8月7日)
- (4) 患者さんアンケート調査の実施 (10月13日～16日)
- (5) チーム医療評価の実施
- (6) 中央図書館より図書の譲受
- (7) 基本スケジュールの裏面活用
- (8) 富士市立中央病院勤務医の負担軽減に資する計画、看護師の負担軽減及び処遇の改善計画の改正
- (9) 部署別年度目標の管理
- (10) 外来患者誘導システム HOSPISION オプションシステム導入に係る検討
- (11) 指示出しマニュアル (医師用) 及び指示受けマニュアル (看護師) の改正

4 来年度の課題

平成27年度に病院機能評価「期中の確認」を終え、患者の権利擁護、感染制御に向けた活動、ICT情報周知、薬剤キットの導入、薬剤の安全情報提供、起炎菌同定については評価をいただいたが、倫理に関する継続的な取り組み及びその他の取り組み予定としている事項もあるため、平成28年度も引き続き進捗状況を管理していく。また、患者さんアンケート調査及び職員満足度調査を行い、院内全般の課題及び各部門で解決が困難な課題を把握し、改善策の検討を行う予定である。積極的に改善に取り組み、更なる医療の質の向上に努めたい。

(文責 遠藤 さよ子)

■NST委員会

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	坪井 一人 (外科)	副委員長	小林 由美 (手術室)
委員	津嶋 友央 (皮膚科)	委員	重田 泰史 (耳鼻咽喉科)
委員	勝山 直彦 (歯科口腔外科)	委員	熊谷 祐 (外科)
委員	角藤 律 (脳神経外科)	委員	佐野 僚子 (臨床検査科)
委員	三澤 延司 (薬剤科)	委員	木元 慎一郎 (薬剤科)
委員	阿部 一仁 (薬剤科)	委員	小俣 朋子 (栄養科)
委員	宇佐美 朝子 (栄養科)	委員	大山 実希 (栄養科)
委員	幾嶋 邦人 (リハビリテーション科)	委員	石井 玲奈 (リハビリテーション科)
委員	梅原 健人 (リハビリテーション科)	委員	長橋 あゆみ (医療技術科)
委員	野澤 里美 (3C病棟)	委員	小野田 智恵子 (4A病棟)
委員	遠藤 里花 (6A病棟)	委員	勝又 祐子 (7B病棟)
委員	井出 悦子 (5A病棟)	委員	若林 久美子 (褥瘡対策専従)
委員	芳野 由規子 (集中治療室)	ワグナー・ハール	平川 正彦 (形成外科)
事務局	名切 孝介 (医事課)	事務局	佐野 元美 (医事課)

2 開催回数

10回 (毎月1回、第3木曜日。8月は除く)

3 平成27年度の取組実績

①チーム活動

栄養評価・病院食改善チーム、摂食嚥下口腔ケアチーム、褥瘡対策チーム (褥瘡対策委員会) の3チームが日々活動しており、月に1度の委員会において、チーム活動報告、情報交換及び症例検討等を行っている。

[栄養評価・病院食改善チーム]

- ・毎週火曜日に栄養科でのカンファレンス及び病棟回診を行っている。

平成27年度 NST 回診 延べ352人 月平均29.3人

[摂食嚥下口腔ケアチーム]

- ・毎月第2木曜日、第4水曜日に回診を行っている。月に1度勉強会を行っている。

平成27年度回診 延べ42人 月平均3.5人

[褥瘡対策チーム（褥瘡対策委員会）]

※褥瘡対策委員会の頁で報告

②全職員対象のNST勉強会の開催

開催日	内容	講師	参加者
H27. 6. 17	栄養評価の方法について	外科 熊谷 祐医師	70名
H27. 9. 2	歯を大切にしよう！	歯科口腔外科 長橋 あゆみ歯科衛生士	81名
H27. 11. 4	褥瘡と栄養管理	ニュートリー株式会社 三河 英利香様	79名
H28. 1. 20	リハビリテーション栄養	栄養科 大山 実希栄養士	62名
H28. 3. 14	TNTプロジェクトについて	外科 坪井 一人医師	47名

③研修会への参加

平成27年8月1日（土）・2日（日）に開催された日本静脈経腸栄養学会 2015年度 東海地区 TNT 研修会に1名の医師が参加し、栄養サポートチーム加算に係る専門資格を取得した。

4 来年度の課題

院内における「NST」の役割や重要性を更に広めるために、引き続きNST勉強会の開催を行っていききたい。また、各チーム活動の充実を図り、症例検討やカンファレンス等を積極的に行うとともに、NST専門療法士資格取得者を増員していききたい。

（文責 坪井 一人）

■輸血療法委員会

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	藤井 常宏 (代謝一般内科)	副委員長(※)	高橋 昌子 (臨床検査科)
委員	織井 恒安 (心臓血管外科)	委員	鳥巢 勇一 (消化器内科)
委員	銅谷 実 (麻酔科)	委員	谷田部 沙織 (外科)
委員	加藤 努 (整形外科)	委員	鈴木 英訓 (泌尿器科)
委員	矢田 大輔 (産婦人科)	委員	園田 章太 (脳神経外科)
委員	大塚 君子 (6 A病棟)	委員	柘植 範子 (5B病棟)
委員	松田 祐平 (薬剤科)	委員	名切 孝介 (医事課)
委員	長峰 誠一郎 (臨床検査科)	委員	石川 隆之 (臨床検査科)
外部委員	佐野 龍将 (日本赤十字社)		

(※)事務局 高橋 昌子 (臨床検査科)

2 開催回数

6回 (隔月、第3火曜日)

3 平成27年度の取組実績

- 輸血管管理料 I、輸血適正使用加算を維持した
- 血液製剤の使用量、輸血後感染症検査実施率、自己血の実績を報告した
- 輸血業務に関連するインシデントの解析と改善方法を検討した
- 輸血業務手順書を改訂した
- 等張アルブミン製剤を輸入製品から国内製品へと切り替えた
- 新人看護師研修にて講義を行った

血液製剤使用量の推移

種別	単位	25年度	26年度	27年度	平成27年度
赤血球製剤	単位	6,104	6,053	5,536	F/M比=0.20 (※)
凍結血漿	単位	1,618	1,568	1,119	A/M比=1.65 (※)
血小板製剤	単位	6,725	9,600	6,640	
アルブミン(A)	g	27,963	27,000	27,400	

※輸血管管理料 I、輸血適正使用加算の条件は F/M : 0.54 未満、A/M : 2.0 未満であること

4 来年度の課題

- ①血液製剤の適正使用推進。
- ②医師への正しい業務手順の周知。
- ③次期電子カルテシステムの輸血関連部分の構築。
- ④次期輸血管管理システムの構築と業務の見直し。
- ⑤コンピュータクロスマッチ導入に向けた準備。
- ⑥高張アルブミン 25%製剤から 20%製剤への切り替え。

(文責 藤井 常宏)

■医療安全管理委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	諸岡 暁 (副院長兼脳神経外科部長)	副委員長	田中 稔 (副看護部長兼医療安全対策室長)
委員	柏木 秀幸 (副院長)	委員	藤井 常宏 (代謝一般内科)
委員	藤本 浩二郎 (診療技術部長)	委員	落合 敏明 (薬剤科)
委員	西田 英明 (臨床工学科)	委員	伊藤 すみ子 (副看護部長)
委員	高橋 ハマ子 (4B病棟)	委員	井出 宣孝 (中央放射線科)
委員	石川 隆之 (臨床検査科)	委員	白川 安俊 (病院総務課)
委員	福良 孝生 (医事課)	事務局	医療安全対策室

リスクマネジメント部会

役 職	氏 名	役 職	氏 名
部会長	田中 稔 (副看護部長兼医療安全対策室長)	副部会長	遠藤 泰彦 (病理科)
部員	11名		

医薬品部会

役 職	氏 名	役 職	氏 名
部会長	落合 敏明 (薬剤科)	部員	7名

医療機器部会

役 職	氏 名	役 職	氏 名
部会長	西田 英明 (臨床工学科)	副部会長	池谷 幸一 (中央放射線科)
部員	9名		

医薬品安全管理責任者 落合 敏明 (薬剤科)

医療機器安全管理責任者 西田 英明 (臨床工学科)

2 開催回数

- (1) 医療安全管理委員会 12回 (毎月1回、最終金曜日)
- (2) リスクマネジメント部会 12回 (毎月1回、第3木曜日)
 - ・ 薬剤製剤グループ 12回 (毎月1回、第2水曜日)
 - ・ 転倒転落グループ 12回 (毎月1回、第2火曜日)
 - ・ 5Sグループ 12回 (毎月1回、第1水曜日)
- (3) 医薬品部会 1回
- (4) 医療機器部会 7回

3 平成27年度の取組実績

- (1) 医療安全カンファレンス
 - ・ スタットコールの検証について 1回開催

- ・血管穿刺時の神経損傷に対する病院の対応について 1回開催
病院の方針に基づき、職員・患者等に周知した。
 - ・精神疾患患者で同意が取れない場合の対応について 1回開催
 - ・事例の検討（誤挿管、院内暴力）について 2回開催
 - ・医療事故調査制度について 1回開催
- (2) 心肺蘇生講習会開催
84名に実施した。
- (3) リスクマネジメント部会
- ・RMたよりの発行 12回
 - ・医療安全推進週間の活動（期間 平成27年11月22日～28日）
「患者誤認防止」をテーマに標語を募集し、最優秀標語を職員の名札に入れ医療安全の意識高揚に努めた。
 - ・医療安全研修
 - ①テーマ：護身術
2回開催し参加人数のべ55名
 - ②テーマ：医療事故調査制度について「既に始まった医療事故調」
開催後、DVD視聴会2回開催し参加人数のべ415名
 - ③テーマ：転倒・転落について～ふらつき、トイレ、薬剤～ 医薬品部会共催
- (4) 医薬品部会
- ・医薬品安全管理責任者ラウンド 2病棟
 - ・研修会
 - ①「輸液の取扱に際して」 2回開催
 - ②「転倒・転落について～ふらつき、トイレ、薬剤～」 1回開催
- (5) 医療機器部会
- ・医療機器安全管理マニュアルの改訂作業（2回）
 - ・医療機器安全使用のための講習会（2回）
 - ①人工呼吸器
 - ②輸液ポンプ類

4 来年度の課題

心肺蘇生講習会は、AHA ガイドライン 2015 に基づいた講習が開催できるようインストラクターを育成する。

医療機器の安全管理体制を構築する。

肺血栓塞栓症/深部静脈血栓症予防マニュアルが適正に実施されているか巡回する。

医療安全カンファレンスを活発に行い院内の医療安全に努める。

(文責 諸岡 暁)

■緩和ケア委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	梶本 徹也（外科）	副委員長	大石 悦子（3C病棟）
委員	鳥巢 勇一（消化器内科）	委員	入村 雄也（外科）
委員	外岡 雄二（精神神経科）	委員	川口 敬（薬剤科）
委員	中村 公美（リハビリテーション科）	委員	西家 裕子（外来）
委員	柘植 範子（5B病棟）	委員	村松 由貴子（外来）
委員	渡辺 明子（6A病棟）	委員	田中 圭子（7A病棟）
委員	江村 宏子（医事課（地域連携室））	事務局	岩垣 哲也（医事課（地域連携室））

2 開催回数

12回（毎月1回、第2木曜日）

3 平成27年度の取組実績

定例会による緩和ケア関連の検討や毎週実施する病棟回診に委員会スタッフ全員で取り組んだ。また、「地域がん診療病院」として「緩和ケアマニュアル」の改定に着手し、来年度の完成を目指した。

院内への啓発と全スタッフのスキルアップ及び共通認識を持つことを目的として、PEACE（日本緩和医療学会・緩和ケアプログラム）を用いた勉強会の定期開催や専門医師を迎えての講演会など、多くの方の参加をいただくことができた。

在宅療養においても緩和ケアニーズが増す中、このような取り組みにより連携の強化を図ることができればと考えている。



〔緩和ケア勉強会・グループワークの様子〕

4 来年度の課題

- ・緩和ケアマニュアルの整備と周知
- ・病棟回診及び勉強会の充実と講演会の開催
- ・必要な薬剤、医療器具の導入
- ・地域がん診療連携拠点病院との緩和ケア関連の連携強化

（文責 梶本 徹也）

■広報委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	杉沢 利次（事務部長）	副委員長	平川 正彦（形成外科）～8月
副委員長	道躰 隆行（外科）9月～	委員	笠井 健司（副院長兼腎内科部長）
委員	藤谷 暢子（眼科）	委員	内野 有子（臨床検査科）
委員	鍋島 雄和（中央放射線科）	委員	竹川 圭亮（リハビリテーション科）
委員	松村 加奈（薬剤科）	委員	北島 美鈴（外来A）
委員	東川 真理（4B病棟）	委員	杉山 裕亮（病院経営課）
委員	加瀬 真己子（病院総務課）	委員	前嶋 健二（医事課）
事務局	木内 啓人（病院経営課）		

2 開催回数

4回（6月、9月、12月、3月）

3 平成27年度の取組実績

①広報誌部会の開催及び病院だよりの発行

当院では平成20年7月から病院だよりの発行を行っている。病院だよりの発行回数は年4回（4月、7月、10月、1月）、発行部数は92,000部で富士市内の全世帯に配布している。病院だより編集のために広報誌部会を開催し、当院の診療情報や健康及び予防に関する情報などを広く市民の皆さまや患者さんに伝えるため、掲載記事の選定や内容について議論を行った。

②ウェブサイト部会の開催及びウェブサイトの管理

情報量の多さや速報性といったウェブサイトのメリットを生かした情報発信を行うため、ウェブサイト部会を開催し内容や構成について検討した。特にトップページについては、訪問者にとって更新された情報が確認しやすく、また魅力的なサイトと認識していただけるように、トピックスの表示方法を見直すとともに画像を用いたトップページ記事の充実を図った。

4 来年度の課題

広報誌では、医療機能の分化など富士保健医療圏での当院の役割を市民の皆さまに理解していただけるような記事の掲載を検討していく。ウェブサイトでは、初期臨床研修医や職員の採用に結びつくように、医療従事者を意識した情報掲載に力を入れていく。

（文責 杉沢 利次）

■食堂・売店検討委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	木村 哲夫（呼吸器内科）	副委員長	遠藤 さよ子（副院長兼看護部長）
委員	加藤 才子（臨床検査科）	委員	杉山 伸一（中央放射線科）
委員	柴田 貴子（薬剤科）	委員	大山 実希（栄養科）
委員	木内 啓人（病院経営課）	委員	白川 安俊（病院総務課）
委員	池邊 貴子（売店職員）	委員	岡野 よし子（食堂職員）
事務局	中川 貴裕（病院総務課）	事務局	塩澤 忠生（病院総務課）

2 開催回数

3回

3 平成 27 年度の実績

- ・ 食堂および売店メニューの検討
- ・ 食堂および売店の事業計画を審議し来年度 1 年間の継続を承認

4 来年度の課題

平成 28 年度も食堂・売店の運営や改善について検討を行い、利用者に良質なサービスを提供する施設となるよう取り組んでいく。

（文責 木村 哲夫）

■経営改革推進委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	柏木 秀幸（副院長）	副委員長	杉沢 利次（事務部長）
委員	藤井 常宏（代謝一般内科）	委員	重田 泰史（耳鼻咽喉科）
委員	藤本 浩二郎（診療技術部長）	委員	石川 隆之（臨床検査科）
委員	井出 宣孝（中央放射線科）	委員	伊藤 すみ子（副看護部長）
委員	大石 悦子（3C病棟）	委員	伊東 禎浩（病院経営課）
委員	白川 安俊（病院総務課）	委員	福良 孝生（医事課）
事務局	北原 正基（病院経営課）		

2 開催回数

11回（1月を除く毎月第4水曜日）

3 平成27年度の取組実績

①地域がん診療病院の指定に向けて

地域がん診療病院の指定に関する要件を満たし申請を行った結果、静岡県立静岡がんセンターとのグループ指定により指定された。

今後、地域がん診療病院に係る取組推進は、地域がん診療病院運営委員会を新設し、より一層のがん診療の充実を図ることとした。

②単年度事業計画書について

平成26年度からの5カ年計画として策定した第二次中期経営改善計画を実効性のあるものにするため、平成27年度事業計画書を作成し院内周知するとともに、平成26年度事業計画の検証を行った。

4 来年度の課題

平成27年度事業計画の検証及び平成28年度事業計画の各事業の進行管理を行い、外部委員による第二次中期経営改善計画の評価を行うとともに、新公立病院改革プランの策定を行う。

また、院内の関係所属、委員会と協力しながら、「地域医療支援病院の承認」を目指していく。

（文責 柏木 秀幸）

■化学療法委員会

1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
委員長	藤井 常宏 (代謝一般内科)	副委員長	後藤 博一 (泌尿器科)
委員	鳥巢 勇一 (消化器内科)	委員	良元 和久 (外科)
委員	矢田 大輔 (産婦人科)	委員	川口 敬 (薬剤科)
委員	阿部 一仁 (薬剤科)	委員	北島 美鈴 (外来)
委員	西家 裕子 (外来B)	委員	遠藤 里花 (6 A病棟)
委員	村松 由貴子 (がん化学療法認定看護師)	委員	佐野 みどり (7 B病棟)
委員	渡辺 まゆみ (3 B病棟)	委員	小林 二十美 (5 A病棟)
事務局	島田 英介 (医事課)	事務局	佐野 元美 (医事課)

2 開催回数

13回 (毎月1回、第4火曜日) 定期開催 10回 臨時開催 3回

3 平成27年度の取組実績

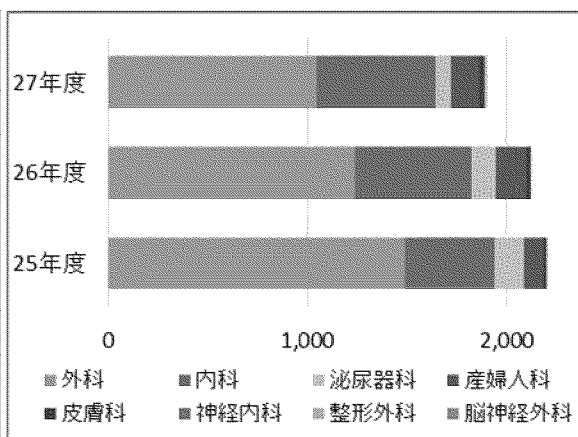
化学療法委員会では年間を通して新規レジメンの検討・承認、レジメンの見直し、通院治療室運用についての検討、化学療法クリニカルパス作成のためのクリニカルパス委員会との連携を行った。新規レジメンは今年度13種類の検討・承認を行った。また、ジェブタナの外来移行の検討、診療報酬改定についての情報共有、曝露防止のためのケモセーフ導入拡大にともない「化学療法マニュアル」の一部修正・差し替えを行った。

4 来年度の課題

地域がん診療病院の要件となる拠点病院と連携したレジメン審査、通院治療室の副作用管理等の薬剤師の関わり方、内服抗がん剤と分子標的薬への関与について検討を行う。

科別レジメン適用件数

診療科	25年度	26年度	27年度
外科	1,495	1,241	1,048
内科	446	587	596
泌尿器科	151	122	79
産婦人科	94	152	145
皮膚科	16	20	24
神経内科	7		
整形外科		10	13
脳神経外科	5		
総数	2,214	2,132	1,905



(文責 藤井 常宏)

■診療材料検討委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	鈴木 康之 (副院長兼産婦人科部長)	副委員長	白川 安俊 (病院総務課)
委員	山城 秀樹 (代謝一般内科)	委員	阪本 宏志 (循環器内科)
委員	入村 雄也 (外科)	委員	阿部 恭平 (外科)
委員	村山 雄輔 (整形外科)	委員	池田 淳 (整形外科)
委員	嶺 崇文 (整形外科)	委員	井出 正俊 (歯科口腔外科)
委員	重田 泰史 (耳鼻咽喉科)	委員	大滝 哲也 (薬剤科)
委員	杉山 伸一 (中央放射線科)	委員	山元 義雄 (臨床工学科)
委員	伊藤 すみ子 (副看護部長)	委員	小林 由美 (手術室)
委員	佐野 まり子 (外来C)	委員	金子 弘之 (病院経営課)
委員	寺田 和子 (医事課)	委員	中川 貴裕 (病院総務課)
事務局	塩澤 忠生 (病院総務課)	事務局	仲澤 実加 (病院総務課)

2 開催回数

12回 (毎月1回、第2月曜日。)

3 平成27年度の取組実績

- ① 新規診療材料等の採択に関する検討
 - ・新規採用 28件 (規格違い商品含む)
- ② SPD委託業者により価格削減提案された商品採用の承認 等
 - ・切替提案商品 (規格違い含む) 75件、現行品削減件数 14件
 - ・年間削減試算額 1,121万円

4 来年度の課題

引続き、新規採用診療材料等の適正かつ効率的な購入の推進を図っていく。

(文責 鈴木 康之)

■ ICU運営委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	阪本 宏志 (循環器内科)	副委員長	野田 靖人 (脳神経外科)
副委員長	植松 和子 (集中治療室)	委員	織井 恒安 (心臓血管外科)
委員	高橋 康人 (腎内科)	委員	坪井 一人 (外科)
委員	佐野 達哉 (臨床工学科)	委員	渡邊 かおる (集中治療室)
委員	芳野 由規子 (集中治療室)	委員	小林 宏美 (集中治療室)
事務局	島田 英介 (医事課)	事務局	杉山 彩 (医事課)

2 開催回数

4回 (第3月曜日)

3 平成27年度の取組実績

(1) ICUの運営

ICUの面会年齢について、輸液ポンプの点滴プローブの導入について、ICUの6床稼働について、改修工事と購入医療機器について人員の確保等について検討を行った。また東海北陸厚生局(厚生労働省)適時調査の指摘事項について、診療報酬改定の内容について情報を共有し、対策の検討を行った。

(2) 統計報告

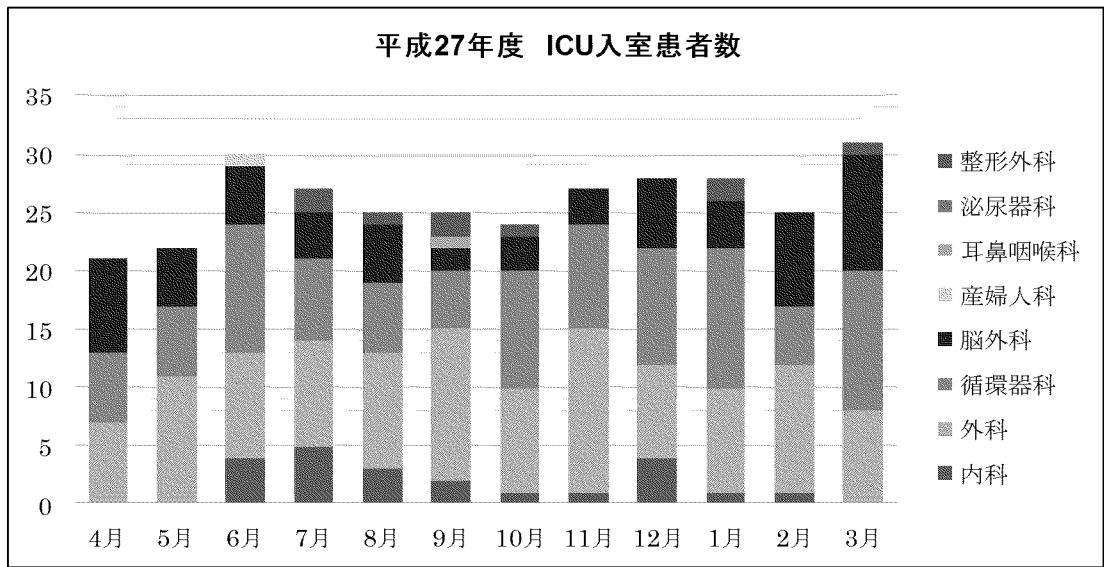
【表1】ICU科別月別入室患者数

【表2】ICUにおける急性血液浄化件数

【表3】ICUにおけるIABP、PCPS件数

【表1】ICU科別月別入室患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科			4	5	3	2	1	1	4	1	1		22
外科	7	11	9	9	10	13	9	14	8	9	11	8	118
循環器科	6	6	11	7	6	5	10	9	10	12	5	12	99
脳外科	8	5	5	4	5	2	3	3	6	4	8	10	63
産婦人科			1										1
耳鼻咽喉科						1							1
泌尿器科													
整形外科				2	1	2	1			2		1	9
月合計	21	22	30	27	25	25	24	27	28	28	25	31	313



単位:人

【表2】ICUにおける急性血液浄化件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
CHDF		3	4	3	1	3	3	4	3	4	4	3	35
PMX								1					1
PE							1	1					2
月合計	0	3	4	3	1	3	4	6	3	4	4	3	38

【表3】ICUにおけるIABP、PCPS件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
IABP	1		4			1	2		1	2	2	2	15
PCPS	1		2			1			1	1			6
月合計	2	0	6	0	0	2	2	0	2	3	2	2	21

4 来年度の課題

6床稼働のための運用検討。セントラルモニターの更新について。

(文責 阪本 宏志)

■医療事故調査委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	諸岡 暁 (副院長兼脳神経外科部長)	委員	内科系医師 (その都度指名)
委員	外科系医師 (その都度指名)	委員	藤本 浩二郎 (診療技術部長)
委員	伊藤 すみ子 (副看護部長)	委員	白川 安俊 (病院総務課)
委員	福良 孝生 (医事課)	委員	田中 稔 (副看護部長兼医療安全対策室長)
事務局	玉舟 正弥 (病院総務課)		

2 開催回数

6回 (案件により随時開催)

3 平成 27 年度の取組実績

医療事故についての具体的な調査検討を目的とした委員会を6回開催し、6件の症例についての検討を行い、それぞれの関係部署に体制の見直しを要請した。

4 来年度の課題

より積極的に医療事故の検証に取り組む。引続き一定程度以上の医療事故およびオカレンスレポートからも事例を選んでいく。

(文責 諸岡 暁)

■医療事故対策委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	小野寺 昭一（院長）	副委員長	諸岡 暁（副院長兼脳神経外科部長）
委員	遠藤 さよ子（副院長兼看護部長）	委員	藤井 常宏（代謝一般内科）
委員	藤本 浩二郎（診療技術部長）	委員	杉沢 利次（事務部長）
委員	白川 安俊（病院総務課）	委員	田中 稔（副看護部長兼医療安全対策室長）
事務局	玉舟 正弥（病院総務課）		

2 開催回数

なし（案件により随時開催）

3 平成 27 年度の取組実績

医療事故対策委員会は、緊急対応を必要とする医療事故が発生した場合、その事故に係わる当院の方針を決定することを目的として、平成 21 年 9 月に設置された。

平成 27 年度は、委員会を開催すべき医療事故はなかった。

4 来年度の課題

委員会の開催を必要とする医療事故が万が一発生した場合は、速やかに委員会を開催し、事実関係に基づき最善の方針を決定していく。

（文責 小野寺 昭一）

■病院情報システム運営委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	柏木 秀幸（副院長）	副委員長	良元 和久（外科）
委員	藤井 常宏（代謝一般内科）	委員	加藤 努（整形外科）
委員	津嶋 友央（皮膚科）	委員	勝山 直彦（歯科口腔外科）
委員	加藤 寛史（薬剤科）	委員	竹下 翔太（臨床検査科）
委員	清水 則雄（中央放射線科）	委員	大山 実希（栄養科）
委員	幾島 邦人（リハビリテーション科）	委員	伊藤 すみ子（副看護部長）
委員	勝又 千壽子（5 A病棟）	委員	白戸 幸子（外来C）
委員	伊東 禎浩（病院経営課）	委員	森 育洋（医事課）
事務局	木ノ内 宏治（病院経営課）		

2 開催回数

12回（月1回、第1月曜日）

3 平成27年度の取組実績

- ・電子カルテシステム更新の検討（5月～3月）
- ・事務系ネットワーク機材交換の実施（7月）
- ・事務系端末の配布の検討及び実施（8月、9月）
- ・病理未読一覧表示機能の検討及び実施（8月～11月）
- ・二重カルテ登録の運用の再検討及び実施（11月、12月）
- ・生理検査システムの容量確保の検討（3月）
- ・診療情報検索機能の使用検討（3月）

4 来年度の課題

電子カルテシステム更新にあたり、新規システム導入及び機能追加部分について、該当するWGにて運用を検討し、12月の機器入替に向けて更新作業を行っていく。さらに、新システム稼動前に操作教育を行い、新システム稼動後の運用に支障が出ないようにする。

また、本年度に引き続き、端末及びネットワーク機材の更新を行い、院内の事務系環境整備に努めていく。

（文責 柏木 秀幸）

■血液浄化・透析機器安全管理委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	笠井 健司 (副院長兼腎内科部長)	副委員長	高橋 康人 (腎内科)
委員	植松 和子 (集中治療室)	委員	花崎 久美子 (6 B病棟)
委員	田中 慶子 (外来A)	委員	白井 さつき (6 B病棟)
委員	佐野 達哉 (臨床工学科)		
事務局	前嶋 健二 (医事課)	事務局	杉山 彩 (医事課)

2 開催回数

11回 (毎月1回、第3水曜日)

3 平成27年度の取組実績

- ・毎月の委員会において、透析室水質管理表の報告 (表1)、急性血液浄化及び維持透析等の実施状況の確認を行った。
- ・透析機器を含む各種医療機器の購入・更新・保守について適宜検討を行った。
- ・災害時における拠点病院としての役割や透析患者への対応について確認を行った。
- ・電子カルテ更新にあたり、透析部門システムについて検討を行った。

血液透析施行患者数	282人	(血液透析施行件数2,564件)
腹膜透析診療患者数 (年度末)	15人	
うち血液透析+腹膜透析併用療法患者数	1人	
維持透析導入患者数	84人	(血液透析83人、腹膜透析1人)
急性血液浄化施行患者数	43人	(73件)
うち持続血液濾過透析	33人	(36件)
エンドトキシン吸着療法	1人	(1件)
二重濾過血漿交換	3人	(18件)
血漿交換	3人	(6件)
白血球除去療法	3人	(12件)

表1－透析室水質管理表（平成27年度）

	RO		セントラル	
	ET 活性値 (EU/ml)	生菌数 (CFU/ml)	ET 活性値 (EU/ml)	生菌数 (CFU/ml)
4月	0.00278	0	0.00099	0
5月	0.00298	0	0.00134	0
6月	0.00331	0	0.00087	0
7月	0.03856	0	0.00066	0
8月	0.00266	0	0.00071	0
9月	0.00225	0	0.00115	0
10月	0.00259	0	0.00088	0
11月	0.00704	0	0.00271	0
12月	0.00277	0	0.00152	0
1月	0.00361	0	0.00099	0
2月	0.00596	0	0.00066	0
3月	0.00412	0	0.00041	0

	コンソール		コンソール		コンソール No.
	ET 活性値 (EU/ml)	生菌数 (CFU/ml)	ET 活性値 (EU/ml)	生菌数 (CFU/ml)	
4月	0.00062	0	0.00062	0	③ ④
5月	0.00062	0	0.00062	0	⑤ ⑥
6月	0.00063	0	0.00063	0	⑦ ⑧
7月	0.00069	0	0.00416	0	⑨ ⑩
8月	0.00067	0	0.00051	0	① ②
9月	0.00062	0	0.00062	0	③ ④
10月	0.00066	0	0.00066	0	⑤ ⑥
11月	0.00049	0	0.00049	0	⑦ ⑧
12月	0.00061	0	0.00061	0	⑨ ⑩
1月	0.00053	0	0.00053	0	① ②
2月	0.00066	0	0.00065	0	③ ④
3月	0.00052	0	0.00052	0	⑤ ⑥

4 来年度の課題

- ・老朽化の進んでいる機器、耐用年数超えの機器の更新を行っていく。
- ・電子カルテ更新における、透析部門システムの運用について検討をする。

（文責 笠井 健司）

■周産期医療機器安全管理委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	鈴木 康之 (副院長兼産婦人科部長)	副委員長	山田 浩介 (小児科)
委員	水野 博代 (4 A病棟)	委員	高橋 ハマ子 (4 B病棟)
委員	西田 英明 (臨床工学科)	委員	塩澤 忠生 (病院総務課)
事務局	臨床工学科		

2 開催回数

2回

3 平成 27 年度の実績

- 1) 周産期に係わる医療機器 (主に保育器、分娩監視装置) の更新計画に基づき医療機器の申請を行った。
- 2) 周産期に係わる医療機器の保守点検実施及び保守費用申請。

4 来年度の課題

- 1) 委員会から要望した機器は、周産期医療の充実に向け、着実に整備されている。今後も引き続き「患者さんに選ばれる病院」を目指して、医療機器の適正な申請および運用を行っていききたい。
- 2) 周産期医療の安全な提供ができるように、委員会活動を行っていききたい。

(文責 鈴木 康之)

■地域連携運営委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	鈴木 康之(副院長兼産婦人科部長)	副委員長	藤井 常宏(代謝一般内科)
委員	井出 宣孝(中央放射線科)	委員	伊藤 すみ子(副看護部長)
委員	伊東 禎浩(病院経営課)	委員	福良 孝生(医事課)
委員	齋藤 幸子(医事課(地域連携室))		
事務局	岩垣 哲也(医事課(地域連携室))	事務局	小林 真紀子(医事課(地域連携室))

2 開催回数

12回(毎月1回、第3火曜日)

3 平成27年度の取組実績

- ・「地域医療支援病院」の承認を目指した体制作りのため「地域医療連携システム実施要領」に基づき、医師会との具体的な連携を強めた。
- ・富士市医師会と「富士市立中央病院地域医療連携施設運営委員会」を共同開催し、情報交換や症例検討を行った。
- ・病診連携をより推進する手段のひとつとして医師の顔写真入り紹介冊子を刊行し、医師会等に配付した。
- ・「地域がん診療病院」の承認を目指し、指定要件の充足を図った。また、がん相談センターとして相談件数を大幅に伸ばすことができた。
- ・スムーズなFAX予約への対応を心がけ、返書システム「Human Bridge」による返書管理により返書率の向上を図った。
- ・ふじのくにバーチャルメガホスピタル「ふじのくにねっと」について、参照施設の登録と開示件数、参照件数の増加を図った。
- ・地域連携の課題などにスポットをあてたWeb研修会を開催した。

4 来年度の課題

- ・「地域医療支援病院」承認に向けた紹介率及び逆紹介率の向上
- ・「富士市立中央病院地域医療連携施設運営委員会」の年間2回の開催
- ・「精神科医療連携連絡会議」の開催
- ・紹介患者予約枠の稼働率の向上
- ・「地域がん診療病院」の指定要件の充足
- ・がん相談支援センター機能の充実と強化
- ・地域肝疾患診療拠点病院としてのネットワークづくり
- ・「医師紹介冊子」(平成28年度版)の発行
- ・「連携安心カード」・「ふじのくにねっと」の普及啓発と運用

(文責 鈴木 康之)

■患者サービス向上委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	遠藤 さよ子(副院長兼看護部長)	副委員長	加藤 努(整形外科)
委員	外岡 雄二(精神神経科)	委員	遠藤 聡(臨床検査科)
委員	三澤 延司(薬剤科)	委員	藤澤 睦子(副看護部長)
委員	勝山 弘子(7A病棟)	委員	後藤 光子(外来D)
委員	鈴木 早苗(外来B)	委員	村田 弘子(3B病棟)
委員	金森 清美(3C病棟)	委員	滝澤 佐織(外来C)
委員	鈴木 裕子(病院総務課)	委員	杉山 彩(医事課)
委員	斉藤 美智代(ニチイ)9月～	委員	酒井 ひとみ(ニチイ)9月～
事務局	小林 あゆ美(病院経営課)		

2 開催回数

12回(毎月1回、第4木曜日)

3 平成27年度の取組実績

- (1) 毎月開催される管理会議と院内連絡会議におけるお礼状の報告
- (2) あいさつ運動(5月、9月、1月の各月3日間)
- (3) 院内掲示物巡回(7月23日)
- (4) 正面玄関南側花壇における花苗の植え替え(6月と11月に富士市花の会の協力を得て実施)
- (5) 正面玄関前広場花壇における花苗の植え替え(6月、11月)
- (6) 院内ギャラリーの運営

展示月	展示会名	団体名	出展作品
4月	水彩画	米長 久	水彩画
5月	ボタニカルアート展	西釜 章夫	水彩画
6月	世界遺産ハロン湾(ベトナム)のスケッチ展	渡邊 勝子	日本画
7月	色鉛筆画展示会	色鉛筆画同好会	色鉛筆画
8月	色鉛筆画展示会	色鉛筆画同好会	色鉛筆画
9月	菅野明美・祐樹親子展示会	菅野明美・菅野祐樹	絵画
10月	なんくる水族館	(株)なんくる	アクリル絵の具(キャンパス)
11月	アントロポゾフィー水彩画	ローズガーデン	水彩画
12月	ゆざわともこパステル展パステル動物園	ゆざわともこ	パステル画

展示月	展示会名	団体名	出展作品
1月	MOA美術館富士児童作品展	MOA美術館富士児童作品展実行委員会	絵画・書
2月	MOA美術館富士児童作品展	MOA美術館富士児童作品展実行委員会	絵画・書
3月	葉彩画	涌田 登美枝	絵画・俳句

- (7) 院内コンサート 演者：元吉原ウインドアンサンブル（12月15日）
- (8) 接遇研修 講師：エコール・ドゥ・クラージュ 徳差あつこ先生（11月20日）
- (9) エントランスホールのテレビの放映時間に関する検討・放映時間の表示
- (10) 投書箱に関する表示の検討・表示内容の変更
- (11) ニチイ学館職員の当委員会への出席を開始
- (12) 院内（1・2階）案内表示の検討・改修
- (13) 富士川ウインドアンサンブルによる院内コンサート開催について検討
- (14) エントランスホールの記載台購入
- (15) お見舞いメール用紙のデザイン変更に関する検討
- (16) 医師の接遇向上に関する検討

4 来年度の課題

お礼状の報告、あいさつ運動、院内掲示物の巡回、花壇の維持管理を引き続き実施する。院内コンサートについては、元吉原ウインドアンサンブルのほか富士川ウインドアンサンブルの演奏によるコンサートも開催する。また、接遇研修を開催することで、患者サービスの向上に繋げていく。

（文責 遠藤 さよ子）

■学術活動推進委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	柏木 秀幸 (副院長)	副委員長	平川 正彦 (医局長:形成外科) ~8月
副委員長	導躰 隆行 (医局長:外科) 9月~	委員	坪井 一人 (外科)
委員	藤澤 睦子 (副看護部長)	委員	勝又 千壽子 (5 A病棟)
委員	鈴木 和訓 (中央放射線科)	委員	柴田 貴子 (薬剤科)
委員	木内 啓人 (病院経営課)	委員	岩垣 哲也 (医事課(地域連携室))
委員	佐野 元美 (医事課)	事務局	秋山 英希 (病院総務課)

2 開催回数

12回 (毎月1回、第3水曜日)

3 平成27年度の実績

当院における学術活動の企画・立案・運営及び、学術に関する病院資産の有効活用を目的に活動した。

毎月開催した定例会では、学術活動のあり方を積極的に検討し、富士市医師会との共催開催である「第30回富士シンポジウム」、市民向けの主催事業「第10・11・12回市民公開講座」、開院記念式典と併せて開催している「第32回院内学術集会」を開催した。

なかでも、年2回定期開催している「市民公開講座」に関しては、回数を1回増やし、平成28年2月14日(日)に、春日居サイバーナイフ・リハビリ病院サイバーナイフ公開講座実行委員会(山梨県笛吹市)との共催で「第12回市民公開講座 諦めないがん治療ーがん治療最前線 切らずに治す放射線治療ー」を追加開催し、240人という多くの参加者に聴講していただくことができた。

また、病院情報資産である病院年報と学術雑誌についても継続して刊行した。

4 来年度の課題

恒例事業として定着した「富士シンポジウム」、「市民公開講座」、「院内学術集会」に関しては、アンケート結果や意見を集約し、検討を重ねて更なる発展を目指す。

引き続き、「市民公開講座」に関しては、院外からの特別講師による講演のみに頼らず、必ず1回は院内から講師を起用し、当院で実際に行っている治療や手術法、健康管理に役立つ情報等を積極的に発信していく。

また、病院年報についても、単なる病院概要や統計資料ではなく、当院の現状がわかりやすく伝わるよう改良を重ね、より良いものになるよう努めていく。

(文責 柏木 秀幸)

■病棟委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	後藤 博一（泌尿器科）	副委員長	河野 優（神経内科）
委員	山城 秀樹（代謝一般内科）～7月	委員	石澤 将（代謝一般内科）8月～
委員	伊藤 三郎（呼吸器内科）	委員	中野 真範（消化器内科）
委員	高橋 康人（腎内科）	委員	阿部 裕一（循環器内科）
委員	織井 恒安（心臓血管外科）	委員	相良 長俊（小児科）～6月
委員	玉利 明信（小児科）7月～	委員	良元 和久（外科）
委員	加藤 努（整形外科）	委員	平川 正彦（形成外科）
委員	野田 靖人（脳神経外科）	委員	栗原 和生（皮膚科）
委員	伊藤 敏谷（産婦人科）	委員	杉山 敦（眼科）～12月
委員	藤谷 暢子（眼科）1月～	委員	宇野 匡祐（耳鼻咽喉科）～9月
委員	黒田 健斗（耳鼻咽喉科）10月～	委員	勝山 直彦（歯科口腔外科）
委員	石川 隆之（臨床検査科）	委員	井出 宣孝（中央放射線科）
委員	西田 英明（臨床工学科）	委員	小俣 朋子（栄養科）
委員	藤本 浩二郎（診療技術部長）	委員	落合 敏明（薬剤科）
委員	伊藤 すみ子（副看護部長）	委員	植松 和子（集中治療室）
委員	水野 博代（4 A病棟）	委員	勝又 千壽子（5 A病棟）
委員	大塚 君子（6 A病棟）	委員	高井 みさ子（7 B病棟）
委員	田中 慶子（外来A）	委員	伊東 禎浩（病院経営課）
委員	白川 安俊（病院総務課）	委員	福良 孝生（医事課）
事務局	木内 啓人（病院経営課）		

2 開催回数

12回（毎月1回、第2木曜日）

3 平成27年度の取組実績

各科の病棟配置及び病床配分について、毎月の病床利用率に基づき来年度の方針を検討した。また、電子カルテシステム更新に向けて、病棟業務に関する運用上の課題について検討し、要望を病院情報システム運営委員会へ提出した。

心電図モニターについて、ワーキンググループを設置し、今後の更新計画を作成した。

4 来年度の課題

平成28年12月の電子カルテシステム更新により病棟業務がより安全に実施できるように、更新内容の確認と必要に応じて運用の見直しを行っていく。また、適正な病床配分に向けて、毎月の病床利用率を把握し検討を行っていく。

（文責 後藤 博一）

■院外処方体制整備委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	笠井 健司 (副院長兼腎内科部長)	副委員長	梶本 徹也 (外科)
委員	津嶋 友央 (皮膚科)	委員	落合 敏明 (薬剤科)
委員	北島 美鈴 (外来A)	委員	田中 慶子 (外来A)
委員	齋藤 幸子 (医事課 (地域連携室))	委員	伊東 禎浩 (病院経営課)
委員	福良 孝生 (医事課)	委員	加藤 寛史 (薬剤科)
委員	三澤 延司 (薬剤科)	委員	前嶋 健二 (医事課)
事務局	北原 正基 (病院経営課)		

2 開催回数

3回 (8月・12月・3月)

3 平成27年度の取組実績

(1) 院外処方せん運用マニュアル (院内用) の一部変更について

薬剤科で作成した改正案について委員会で承認した。

(2) 院外処方打合せ会の開催

院外処方への移行に伴い、富士市、富士宮市、沼津市の薬剤師会の代表及び当院周辺出店薬局と意見交換を行うために打合せ会を実施した。

ア 実施回数 1回 (8月)

イ 内 容 今後の院外処方打合せ会についての検討

ウ 検討結果 今回を持って定期開催を終了とし、今後は必要に応じて開催することとする。

4 来年度の課題

院外処方開始から2年半が経過し、所期の目的が達成されたため、院外処方体制整備委員会を解散し、今後の院外処方に関する業務は薬剤委員会に引き継ぐことになった。

(文責 笠井 健司)

■女性医師等就労環境改善委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	伊藤 すみ子（副看護部長）	委員	藤谷 暢子（眼科）
委員	岸本 彩子（産婦人科）	委員	野田 文子（臨床検査科）
委員	岩崎 佐知子（臨床検査科）	委員	大石 悦子（3C病棟）
委員	北島 美鈴（外来A）	委員	齋藤 千賀子（病院総務課）
事務局	鈴木 裕子（病院総務課）		

2 開催回数

5回（うち1回は講演会）

3 平成27年度の取組実績

仕事と家庭の両立ができる働きやすい職場環境の整備、女性医師等の確保や離職防止を目的に、子育て等で仕事と家庭の両立が難しく、離職や離職後の再就業に不安を抱える女性医師等の就業に係る調査・研究・支援などの活動を実施。

【委員会】

4回実施：平成27年11月4日（水）、平成27年12月2日（水）、
平成28年1月7日（木）、平成28年2月8日（月）

内 容：病児保育の実施について、講演会について 等

【講演会】

日 時：平成28年2月25日（木）17:30～18:30

参加人数：46名

内 容：働く女性のための講演会「アロマがもたらす癒しと効能～アロマテラピーで環境改善～」

講 師：調香師 宮川 真希 氏

4 来年度の課題

当院におけるワークライフバランスの推進を図るため、職員アンケート結果による職員の声を基に、より良い職場環境の改善について引き続き提言をしていく。

働く女性の職場環境改善だけでなく、働く女性を広く支援していく。

富士市職員いきいきプランの取り組みを推進していく。

（文責 伊藤 すみ子）

■外来委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	笠井 健司 (副院長兼腎内科部長)	副委員長	藤谷 暢子 (眼科)
委 員	藤井 常宏 (代謝一般内科)	委 員	木村 哲夫 (呼吸器内科)
委 員	鳥巢 勇一 (消化器内科)	委 員	三川 秀文 (循環器科)
委 員	秋山 直枝 (小児科)	委 員	梶本 徹也 (外科)
委 員	加藤 努 (整形外科)	委 員	平川 正彦 (形成外科)
委 員	諸岡 暁 (副院長兼脳神経外科部長)	委 員	栗原 和生 (皮膚科)
委 員	鈴木 英訓 (泌尿器科)	委 員	鈴木 康之 (副院長兼産婦人科部長)
委 員	黒田 健斗 (耳鼻咽喉科)	委 員	松井 洋 (放射線科)
委 員	銅谷 実 (麻酔科)	委 員	外岡 雄二 (精神神経科)
委 員	井出 正俊 (歯科口腔外科)	委 員	伊藤 すみ子 (副看護部長)
委 員	北島 美鈴 (外来看護長)	委 員	佐野 まり子 (外来C)
委 員	後藤 光子 (外来D)	委 員	西家 裕子 (外来B)
委 員	鈴木 雅人 (臨床検査科)	委 員	遠藤 佳秀 (中央放射線科)
委 員	西田 英明 (臨床工学科)	委 員	中村 公美 (リハビリテーション科)
委 員	加藤 寛史 (薬剤科)	委 員	伊東 禎浩 (病院経営課)
委 員	白川 安俊 (病院総務課)	委 員	福良 孝生 (医事課)
委 員	齋藤 幸子 (医事課地域連携室)	事務局	寺田 和子 (医事課)
事務局	前嶋 健二 (医事課)		

2 開催回数

11回

3 平成27年度の取組実績

- ・リウマチ膠原病コンサルテーション外来の開設にあたり、審議のうえ運用案を提示した。
- ・ヒューマンブリッジのバージョンアップに併せ、ヒューマンブリッジ及び文書作成に多数掲載されている類似様式の整理・統合を図るため、紹介状・返書・英文用各科共通3様式を提示し、協議、検討のうえ、各委員会の承認を得て新様式を掲載した。
- ・来年度の電子カルテ更新に向けて、今後外来運用にどのような影響や、改善点があるのか検証、確認作業を開始した。
- ・外来各部門で挙げられた問題点や要望等について議論し、院内の連携、改善を図った。

4 来年度の課題

電子カルテの更新に向けて、スムーズな外来運用となるよう、引き続き協議、検討していく。

外来部門に係るあらゆる問題、課題を取り上げ、解決を図る。

地域医療支援病院の承認を目指し、紹介・逆紹介率向上のための方策を提言していく。

(文責 笠井 健司)

■放射線安全管理委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	鈴木 康之 (副院長兼産婦人科部長)	副委員長	井出 宣孝 (中央放射線科)
委員	遠藤 さよ子 (副院長兼看護部長)	委員	藤井 常宏 (代謝一般内科)
委員	清水 則雄 (中央放射線科)	委員	遠藤 一弘 (中央放射線科)
委員	神田 直樹 (中央放射線科)	委員	白川 安俊 (病院総務課)
委員	中川 貴裕 (病院総務課)	委員	玉舟 正弥 (病院総務課)

- ・安全管理責任者：井出 宣孝
- ・放射線取扱主任者：遠藤 一弘
- ・放射線取扱主任者（安全管理担当者）：神田 直樹
- ・管理区域担当者：清水 則雄
- ・健康管理医：藤井 常宏
- ・施設管理責任者：白川 安俊
- ・施設管理担当者：中川 貴裕
- ・法令担当者：玉舟 正弥

2 開催回数

1回

3 平成 27 年度の取組実績

- ・放射線障害防止法および予防規程により定められた以下の項目を実施した。

個人被ばく線量測定	12回 / 年
健康診断	2回 / 年
環境測定	2回 / 年
自主点検（放射線治療室、RI 室、X線撮影室）	2回 / 年
教育訓練	1回 / 年
放射線管理状況報告書提出	1回 / 年
RI 使用予定届提出	1回 / 年
保健所立入検査	1回 / 年
原子力規制委員会立入り検査	抜き打ち方式

4 来年度の課題

(1) 保健所立入り検査結果について

- ・年間5mSvを超える被ばく者に関しては、被ばく低減に努める。
- ・被ばく者には、健康診断を受診するように指導する。
- ・初めて管理区域に立入る者には、教育訓練の実施を徹底する。
- ・新規購入機器について、医師等が単独で操作する場合には操作訓練の記録を残す。

(2) 原子力規制委員会立入り検査について

- ・健康診断個人票は、実施の都度記録の写しを対象者に交付すること。

(文責 鈴木 康之)

■災害対策委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	諸岡 暁 (副院長兼脳神経外科部長)	副委員長	杉沢 利次 (事務部長)
委員	平川 正彦 (形成外科)	委員	後藤 博一 (泌尿器科)
委員	遠藤 泰彦 (病理科)	委員	高橋 康人 (腎内科)
委員	北村 博顕 (外科) ～6月	委員	良元 和久 (外科) 7月～
委員	石川 隆之 (臨床検査科)	委員	井出 宣孝 (中央放射線科)
委員	落合 敏明 (薬剤科)	委員	伊藤 すみ子 (副看護部長)
委員	勝山 弘子 (7 A病棟)	委員	伊東 禎浩 (病院経営課)
委員	白川 安俊 (病院総務課)	委員	福良 孝生 (医事課)
委員	中川 貴裕 (病院総務課)	委員	武吉 勇喜 (警備室)
外部委員	池田 益朗 (※)	事務局	玉舟 正弥 (病院総務課)
事務局	秋山 英希 (病院総務課)		

(※) 水道技術管理者・水道工務課長

2 開催回数

12回 (毎月第1火曜日)

3 平成27年度の取組実績

(1) 災害対策訓練の実施【年2回】

委員会組織である訓練部会にて詳細を検討し、災害対策訓練を実施した。

① 1次トリアージ訓練

7月14日(火)・15日(水)・16日(木)・28日(火)の4日間、診療技術部と事務部職員を対象に、1次トリアージに関する基礎知識習得及び模擬判定訓練を行った。参加者は118名。

② 救護所訓練

11月29日(日)、外部講師を招き、院内講師とともに、診療部と看護部職員を対象に、救護所訓練を行った。診療部は標準外傷診療コースのJATECに準じた外傷初期診療訓練を行い、看護部はトリアージの必要性の理解と2次トリアージの実施までを学習した。外傷初期診療訓練に関しては、富士市医師会会員医師の参加も可能とし、地域医師との技術共有及び連携強化を図った。参加者は全24名。

(2) 災害対策用資機材の配備

以下の資機材を配備した。

①災害用備蓄トイレ

断水時に使用可能な備蓄トイレ（和式用 20 セット、洋式用 60 セット・計 12,400 回分）を配備した。

②アルミ折りたたみリヤカー

災害用資機材の運搬用として、アルミ製の折りたたみリヤカー（2 台）を配備した。担架も固定でき、患者・負傷者等の搬送も可能。

(3) 職員用備蓄食料の配備

備蓄食料の見直しを行い、平成 28 年度より 6 カ年で「サバイバルフーズ（25 年保管可能）を配備する計画を立てた。今年度は少量を先行購入し、事前配備を開始した。

(4) DMAT の強化・育成

国・県等が主催する各種訓練や研修へ積極的に参加し、知識及び技術の向上に努めた。参加した訓練・研修は以下のとおり。

①県・焼津・藤枝市総合防災訓練【8 月 30 日（日）・牧之原市 富士山静岡空港】

※但し全体訓練は開催直前に荒天中止。参集先で局所的に訓練実施

②救護所訓練【11 月 29 日（日）・当院】※協力参加

③自衛隊航空機を使用した DMAT 広域医療搬送実機研修【平成 28 年 2 月 3 日（水）・愛知県 航空自衛隊小牧基地】

④平成 27 年度第 4 回中部ブロック災害派遣医療チーム (DMAT) 技能維持研修【平成 28 年 3 月 9 日（水）－10 日（木）・三重県 津市】

⑤富士市消防本部との合同救護所訓練【平成 28 年 3 月 3 日（木）・市内 西消防署】※多重交通事故を想定した救助および救護所訓練

(5) その他

富士市医師会を通じ、JMAT に 1 チーム（3 名）を登録した。

4 来年度の課題

引き続き、富士市地域防災計画及び富士市立中央病院地震防災計画に基づき、災害拠点病院として、急性期における医療救護活動と傷病者の広域搬送及び地域医療機関の支援に貢献するため、災害対策訓練の継続開催を通して職員一人ひとりの災害医療に対する技術及び知識向上を図り、災害対策用設備及び資機材等の配備を計画的に行っていく。

(文責 諸岡 暁)

■防火管理委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	諸岡 暁（副院長兼脳神経外科部長）	副委員長	遠藤 さよ子（副院長兼看護部長）
副委員長	杉沢 利次（事務部長）	委員	柏木 秀幸（副院長）
委員	鈴木 康之（副院長兼産婦人科部長）	委員	笠井 健司（副院長兼腎内科部長）
委員	藤井 常宏（代謝一般内科）	委員	石川 隆之（臨床検査科）
委員	井出 宣孝（中央放射線科）	委員	藤本 浩二郎（診療技術部長）
委員	伊藤 すみ子（副看護部長）	委員	藤澤 睦子（副看護部長）
委員	伊東 禎浩（病院経営課）	委員	白川 安俊（病院総務課）
委員	福良 孝生（医事課）	委員	中川 貴裕（病院総務課）
委員	武吉 勇喜（警備室）	事務局	塩澤 忠生（病院総務課）

2 開催回数

2回（10月、3月）

3 平成27年度の取組実績

- ・消防法の規定に基づき、院内消防訓練を2回実施した。

第1回は10月20日に実施した。3C病棟での夜間を想定した病棟避難訓練、業者による消防設備の説明、はしご車での降下訓練及び水消火器を用いた初期消火訓練を実施した。

第2回は3月16日に実施した。第1回と同様の病棟避難訓練を7B病棟で行い、業者による消防設備の説明を受けた。その後、救助袋を用いた病棟からの降下訓練及び水消火器を用いた初期消火訓練を実施した。

4 来年度の課題

平成28年度も引き続き消防訓練を実施し、職員の防火意識の向上を図っていく。

（文責 諸岡 暁）

■虐待対策委員会（G T I）

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	諸岡 暁（副院長兼脳神経外科部長）	副委員長	藤井 常宏（代謝一般内科）
委員	加藤 努（整形外科）	委員	日馬 由貴（小児科）
委員	山田 浩介（小児科）	委員	伊藤 すみ子（副看護部長）
委員	北島 美鈴（外来A）	委員	秋山 ゆかり（3 B病棟）
委員	東川 真理（4 B病棟）	委員	白川 安俊（病院総務課）
委員	福良 孝生（医事課）	委員	江村 宏子（医事課（地域連携室））
事務局	岩垣 哲也（医事課（地域連携室））		

2 開催回数

4回

3 平成 27 年度の取組実績

虐待対応マニュアルの作成において、昨年度から取り組んできた「児童虐待への対応マニュアル」を作成した。作成を院内周知するために静岡県立こども病院の医師による講演会を開催し、院内外から多くの参加を得ることができた。以後はマニュアルに沿った対応によりスムーズな通告が可能となっている。

4 来年度の課題

- ・高齢者や障害者虐待対応マニュアルの作成と DV 対応マニュアルの作成
- ・職員を対象とした研修会や啓発講演会の開催

（文責 諸岡 暁）

■臨床研修センター

1 設置目的

富士市立中央病院の医師臨床研修を運営する。（平成 27 年 1 月 1 日設置）

2 役割

臨床研修センターは、初期臨床研修医の育成に関わる。具体的には、初期臨床研修医の募集・採用、研修プログラムの策定、評価や修了認定など、研修全般の運営、さらに臨床研修医の精神的支援など、研修プログラムの円滑な実施のため、院内診療科や地域の協力病院と連携して活動をする。

3 組織

役 職	氏 名	役 職	氏 名
センター長	笠井 健司 (副院長兼腎内科部長)	副センター長	梶本 徹也 (外科)
指導主任	良元 和久 (外科)	臨床研修医	一場 剛
臨床研修医	白坂 和美	臨床研修医	坊 英明
事務局	病院総務課		

4 平成 27 年度の取組実績

- (1) 初期臨床研修医オリエンテーションの実施
- (2) 初期臨床研修医に対する面談の実施、ローテーションの調整
- (3) ウェブサイトの検討
- (4) 臨床研修案内の作成
- (5) 臨床研修指導医養成講習会への医師派遣（4名）
- (6) 研修の企画及び実施
スキルアップ研修（初期・後期臨床研修医対象）等
- (7) 医学生に対する合同説明会参加
- (8) 平成 27 年度 臨床研修プログラムの実例

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年	必修 内 科						選択 放射 線科	選択 必修 麻酔科	選択必修 外科		必修 外科 《救急》	選択 泌尿 器科
2年	必修 小児科 《救急》	選択 必修 小児科	選択必修 産婦人科		選択必修 精神科 (鷹岡病院)		必修 地域 医療	選択 消化器内科 《救急》		選択 放射 線科	選択 外科	

(文責 笠井 健司)

■富士市透析防災ネットワーク

平成 22 年 4 月、富士市内の 7 透析施設と富士市役所防災危機管理課、保健医療課の代表者が集まり、富士市透析防災ネットワークが発足した。

会長を笠井副院長、事務局を病院総務課とし、医療機関と行政が連携して「大規模地震等の災害時において、透析治療を必要とされる方が、安心して治療を受けることができるように、富士地区透析施設におけるネットワークを構築する」ことを目的に、体制の整備、訓練、啓発活動を行っている。

1 スタッフ

- ・富士市立中央病院

役 職	氏 名	役 職	氏 名
会長	笠井 健司 (副院長兼腎内科部長)	メンバー	西田 英明 (臨床工学科)
メンバー	山元 義雄 (臨床工学科)	メンバー	佐野 達哉 (臨床工学科)
メンバー	勝間田 賢 (臨床工学科)	メンバー	諏訪部 新 (臨床工学科)
メンバー	杉山 弘一 (臨床工学科)	メンバー	花崎 久美子 (6 B病棟)
メンバー	白井 さつき (6 B病棟)	事務局	玉舟 正弥 (病院総務課)

- ・参加透析施設

加藤クリニック、共立蒲原総合病院、新富士病院、聖隷富士病院、東名富士クリニック、富士第一クリニック (五十音順)

- ・参加行政機関

富士市総務部防災危機管理課、富士市保健部保健医療課

2 開催回数

日	時	場所	内容	参加人数
H27. 4. 16	19:00	中央病院	第 1 回実務者会議	18
H27. 7. 2	19:00	中央病院	第 2 回実務者会議	17
H27. 8. 20	19:00	東名富士クリニック	第 3 回実務者会議及び 透析機器研修	26
H27. 9. 24	19:00	中央病院	第 4 回実務者会議	26
H27. 10. 6	19:00	中央病院	施設代表者会議	7
H27. 11. 19	19:00	中央病院	第 5 回実務者会議	16
H27. 12. 16	9:30	各施設	情報伝達訓練	—
H28. 2. 23	19:00	中央病院	施設代表者会議	6
H28. 2. 25	19:00	中央病院	第 6 回実務者会議	19

3 平成 27 年度の取組実績

(1) 富士市透析防災講演会の開催

平成 27 年 10 月 24 日（日）富士市消防防災庁舎 7 階大会議室にて透析患者向け講演会を開催した。講演内容は以下の通りである。

来場者数：一般参加者 68 名 スタッフ 84 名

①東日本大震災を体験して

（富士市立中央病院腎内科医長 高橋康人）

②知っておきたい富士市透析防災ネットワークの災害対策

（富士市透析防災ネットワーク会長 笠井健司）

4 来年度の課題

来年度も引き続き透析患者向けの講演会を行う。また、第 2 種拠点透析施設を中心に透析機器研修を行うとともに、情報伝達訓練を実施する。

（文責 笠井 健司）

■利益相反（COI）委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	諸岡 暁（副院長兼脳神経外科部長）	副委員長	鈴木 康之（副院長兼産婦人科部長）
委員	遠藤 さよ子（副院長兼看護部長）	委員	落合 敏明（薬剤科）
委員	杉沢 利次（事務部長）	事務局	玉舟 正弥（病院総務課）

2 開催回数

なし（案件により随時開催）

3 平成 27 年度の実績

利益相反委員会は、外部との経済的な利益関係により公的研究で必要とされる「公正」「適正」な判断が損なわれる、または損なわれているのではないかと第三者から懸念が表明されかねない事態について適正な管理を行うため、平成 27 年 4 月 1 日に設置した。

平成 27 年度は、委員会を開催すべき利益相反はなかった。

4 来年度の課題

委員会の開催を必要とする利益相反が申請された場合は、速やかに委員会を開催し、利益相反管理規定に定める利益相反の適切な管理及び透明性の確保に努める。

（文責 諸岡 暁）

■NICU運営委員会

1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
委員長	秋山 直枝 (小児科)	副委員長	鈴木 康之 (副院長兼産婦人科部長)
副委員長	山田 浩介 (小児科)	副委員長	高橋 ハマ子 (4 B病棟)
委員	日馬 由貴 (小児科)	委員	矢田 大輔 (産婦人科)
委員	岸本 彩子 (産婦人科)	委員	水野 博代 (4 A病棟)
委員	東川 真理 (4 B病棟)	委員	小野田 智恵子 (4 A病棟)
事務局	森 育洋 (医事課)	事務局	島田 英介 (医事課)

2 開催回数

10回 (月1回、第1木曜日)

3 平成27年度の取組実績

NICUの管理運営のため、6月より新規委員会として設立した。オブザーバーとして小野寺院長、杉沢事務部長に参加していただき、NICUの運営と問題点について検討を行った。

検討した議題は、医療用ガス工事に伴うNICU機能制限時の対応、周産期医療に係る産婦人科及び小児科の診療体制マニュアルの改訂、搬送用クベース用空気ボンベの導入について、新生児蘇生法講習会の運用を検討した。

その他、NICUの定期的患者数報告、インシデントケースの共有、診療報酬改定の情報共有などを行った。

4. 来年度の課題

委員会設立当初の配管などの問題や、中期的な検討課題が解消され、ベッド稼働状況の報告のみとなったため、周産期カンファレンスで問題となった点やNICU運営の問題点発生時に検討をするよう、開催回数の検討をする。

(文責 秋山 直枝)

■省資源・省エネルギー対策推進委員会

役職	氏名	役職	氏名
委員長	杉沢 利次（事務部長）	副委員長	津嶋 友央（皮膚科）
副委員長	伊藤 すみ子（看護部長室）	委員	14名

■終末期医療対策委員会

役職	氏名	役職	氏名
委員長	梶本 徹也（外科）	副委員長	遠藤 さよ子（副院長兼看護部長）
委員	5名		

■2C外来開設連絡会議

役職	氏名	役職	氏名
委員長	柏木 秀幸（副院長）	副委員長	鈴木 康之（副院長兼産婦人科部長）
委員	10名		